

平成25年度  
教育・研究評価結果報告書

平成26年 3 月

鳴門教育大学教育・研究評価部会

# 目 次

教育・研究評価部会委員名簿	1
事項ごとの評価	3
I 教育・研究活動の業績及び質の向上の状況	3
II 学生による授業評価の状況	5
III ファカルティ・ディベロプメント推進事業の状況	6
評価の根拠となる資料・データ	7

## 教育・研究評価部会

規則の根拠	委 員		任 期	備 考
	職 名	氏 名		
2-(1)	理 事	西 園 芳 信		教育・研究担当
2-(2)	理 事	山 下 一 夫		企画・社会連携担当
2-(3)	副 学 長	梅 津 正 美		評価・外部資金担当
2-(4)	基礎・臨床系教育部 教 授	村 川 雅 弘	25.4.1～26.3.31	
2-(4)	人文・社会系教育部 教 授	前 田 一 平	25.4.1～26.3.31	
2-(4)	自然・生活系教育部 教 授	成 川 公 昭	25.4.1～26.3.31	
2-(4)	芸術・健康系教育部 教 授	松 岡 貴 史	25.4.1～26.3.31	
2-(5)	徳島県教育委員会 教 育 次 長	藤 井 伊 佐 子	25.4.1～26.3.31	
2-(5)	徳島県立総合教育 セ ン タ ー 所 長	西 浦 宏 明	25.4.1～26.3.31	
2-(5)	鳴門市教育委員会 教 育 次 長	近 藤 芳 夫	25.4.1～26.3.31	
2-(6)	徳島文理大学 人間生活学部 教授	三 橋 謙 一 郎	25.4.1～26.3.31	
2-(6)	京都産業大学 文化学部 教授	角 田 豊	25.4.1～26.3.31	
2-(7)				

### 教育・研究評価部会設置要項

#### (組織)

第2 部会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事(教育・研究担当)
- (2) 理事(企画・社会連携担当)
- (3) 副学長(評価・外部資金担当)
- (4) 各教育部に属する教授のうちから各1名
- (5) 鳴門教育大学教員養成等推進会議の外部委員のうちから学長が指名する者 若干人
- (6) 学長が指名する外部有識者 若干人
- (7) その他学長が指名する者 若干人



## 事項ごとの評価

鳴門教育大学の平成25年度教育・研究評価にあたり、本部会では以下の4点を評価の重点観点と定め検討した。

1. 高度専門職業人としての教員を養成することを目的とする大学として、各学位課程の教育がプログラム・ベースで行われているか。
2. ステークホルダー（学校・教育委員会・地域社会等）のニーズを踏まえた教育・研究活動が展開しているか。
3. 単位の実質化が図られているか。
4. 大学としての教育力量の向上に資するFDが行われているか。

この4つの評価観点をふまえ、平成24年度実績による教育・研究評価の状況について報告する。

### I 教育・研究活動の業績及び質の向上の状況

#### 1. 全体の状況及び特徴

（教育）

鳴門教育大学の平成24年度の教育活動の実績について特記すべき点は、以下の3点である。

第1に、学士課程・修士課程・専門職学位課程それぞれの教育が、各学位課程にふさわしいプログラムとして展開していることである。

学士課程については、教育実践学を中核とする教員養成コア・カリキュラムを継続して実践するとともに、新たにモデルカリキュラム策定のプロジェクト研究の取組において、教員としての資質・能力の内容を「教員としての資質・能力スタンダード」に整理し到達目標として捉え、それと結びついた「カリキュラム・チェックリスト」「カリキュラム・マップ」「改正シラバス」を構成することにより、学生の視点から学習の体系性と順次性を明確にしようと努めている。また、教科内容学研究成果を踏まえ、教員養成のための教科専門科目の内容と方法について提案している。

修士課程については、今日の教育課題を各教科・領域教育の観点から捉え、その本質と解決の視座を学ぶ「広領域コア科目」と、学校現場と連携し教育課題に対し実践を通して解決の道筋を示していく「教育実践フィールド研究」の2領域をコア科目とするコア・カリキュラムを編成し、教育実践力育成の目標のもとで学士課程カリキュラムとの一貫性を確保している。

専門職学位課程（教職大学院）においては、学校現場や教員のニーズを踏まえ、高度学校教育実践専攻における3コース（学校・学級経営コース、学校臨床実践コース、授業実践・カリキュラム開発コース）を、教職実践力高度化コースに統合し、受け入れる教員の年齢層の拡大を意図し、より幅広い教職キャリアに対応した課題解決型の教師教育を実現するための改革を実施した。（資料I-1-1～I-1-4）

第2に、学生に対する5段階の評定において高い成績分布を示していることである。成績評価については、S（100点～90点）、A（89点～80点）、B（79点～70点）、C（69点～60点）、及びD（59点以下）の5段階でそれぞれ評価基準を定め、それに基づいて学部では、S及びAの割合が、「教養基礎科目」で62%、「教育実践コア科目」で74%、「教職共通科目」で58%、「専修専門科目」で60%となっている。修士課程では、S及びAの割合が、「教職共通科目」56%、「領域等内容科目」で88%、「領域等方法科目」で91%、「広領域コア科目」で75%、「教育実践フィールド研究」で97%となっている。専門職学位課程では、S及びAの割合が、「共通科目」で100%、「専門科目」で99%、「実習科目」で100%となっている。（資料I-2）

第3に、学生の学修及び教員就職に対する充実した支援体制をとっていることである。教員採用試験に向けた体系的で実践的な支援事業を組織し、平成25年3月卒業者の教員就職について教員就職率75.5%（全国44大学中第2位）、進学者等を除くと91.2%（全国44大学中第1位）という実績を上げている。（資料I-3）

（研究）

鳴門教育大学の平成24年度の研究活動の実績について特記すべき点は、以下の3点である。

第1に、教員養成大学の目的を踏まえて、「教養教育・教育科学」、「教科・領域教育」、「教科専門」の各分野においてステークホルダーのニーズをふまえた研究成果がバランスよく発表されていることである。

平成24年度の研究活動の状況を総数で示すと、著書・訳書53編、論文105編、プロシーディング5編、紀要等論文138編、作品・演奏45件、国際学会発表84件、国内学会発表（全国）257件、研修会講演・発表56件となっている。（資料I-4、I-5）

教員養成大学に求められる今日的な研究課題に着目し、「教師の学習指導・保育実践力の向上」「教員養成カリキュラム・授業評価」「学校現場のニーズに応じた先端的な教育研究」「地域貢献」についてみても、意欲的な研究成果が継続的に発表されてきている。（資料I-6）

第2に、学長裁量経費に係る「教育・研究支援プロジェクト」として申請16件のうち9件が採択されているが、いずれも今日的な学校教育の課題や地域連携、あるいは社会全体の取組課題としての環境・エネルギー問題、人口減少社会の到来に対応した教育の在り方に関する先導的なプロジェクト研究が推進されている。（資料I-7）

第3に、本学には各教員の専門分野を活かした地域貢献の活動として「教育支援講師・アドバイザー制度」が設けられているが、事業実績を見ると、平成22年度の159件、平成23年度の200件に対し、平成24年度は198件であり、学校や社会の要望に応える形で堅調な伸びを示している。（資料I-8）

## 2. 評価結果と改善あるいは質の向上に向けての提言・要望

鳴門教育大学の目的・使命に照らして、教育・研究活動及びそれらを踏まえた地域貢献が、「順調」に展開していると判断する。

改善あるいは質の向上に向けての提言・要望として、以下の5点を指摘する。

- ①本学の学生は成績評価において全般的に高い評価を得ているが、一方で「学生生活実態調査」の結果をみると（資料Ⅰ－9参照）、授業に係る予習・復習の時間や読書の時間はかなり少ないと言える。単位の実質化の観点から、評価方法の在り方や学生に学習を促す方法等について、教務委員会やFD等の場で検討する必要がある。
- ②各種免許取得に対する学生のニーズを踏まえつつも、単位の実質化の観点から、CAP制の導入の在り方について検討していく必要がある。
- ③本学における学生の履修カルテである「学修キャリアノート」について、記入がルーチン化していく中で、学生の教育実践力の省察・評価のために「これを活用していく」という観点が薄れていくことが懸念される。「教職実践演習」等の授業で実質的に活用していく方策の検討が必要である。
- ④卒業生・修了生への大学としてのフォローアップや、卒業生・修了生と在学生との交流の機会を設けることで、教育・就職支援活動に対する大学のアピール度を高めていけるのではないかと。
- ⑤学校や地域との連携や情報交換を密にして、徳島県下の教育課題の解決への協力・取組に引き続き力を注いでいただきたい。

## Ⅱ 学生による授業評価の状況

### 1. 全体の状況及び特徴

平成24年度に実施された学生による授業評価アンケートは、授業科目総数416、有効回答数9,654である。

教養基礎科目に対する授業評価の実施授業科目数は40科目、有効回答人数は1,136名であり、評価の総合平均値は、「4.3」である。教育実践コア科目に対する授業評価の実施授業科目数は41科目、有効回答人数は454名であり、評価の総合平均値は、「4.3」である。教職共通科目に対する授業評価の実施授業科目数は82科目、有効回答人数は3,828名であり、評価の総合平均値は、「4.3」である。専修専門科目に対する授業評価の実施授業科目数は253科目、有効回答人数は4,236名であり、評価の総合平均値は、「4.3」である。（資料Ⅱ－1）

## 2. 評価結果と改善あるいは質の向上に向けての提言・要望

平成24年度学生による授業評価アンケートの結果から、鳴門教育大学では、大学の目的・使命と学生のニーズをふまえた教育が、「順調」に展開していると判断する。

改善あるいは質の向上に向けての提言・要望として、以下のことを指摘する。

学生の主体的な学習への取組を促したり、授業に対する予習・復習の時間を増やす具体的な方策について検討する必要がある。

## Ⅲ ファカルティ・ディベロップメント推進事業の状況

### 1. 全体の状況及び特徴

平成24年度のファカルティ・ディベロップメント（FD）推進事業は、特別公開授業と事後の授業研究会及びFDワークショップ、全体会において『よい教師を育てる授業とは』テーマのもと、①教科教育と教科専門の関係、②授業実践力と専門知識・資質との関連性、を研究課題に教員間で討議し、その内容を「ファカルティ・ディベロップメント推進事業実施報告書」にまとめ公表している。（資料Ⅲ－1）

### 2. 評価結果と改善あるいは質の向上に向けての提言・要望

鳴門教育大学では、FD推進事業において、教員養成教育をめぐる実践的課題を見出し、その解決のための方策を教員間で具体的に討議する方法を継続して採っている。平成24年度は特に、学問研究の力量形成と教育実践力育成の関係性や教員養成教育における教科専門科目の在り方について検討がなされており、FD推進事業が、「順調」に展開していると判断する。

改善あるいは質の向上に向けての提言・要望として、以下のことを指摘する。

平成24年度においても、学部及び大学院修士課程と専門職学位課程とが、それぞれ独自にFDを行っている。教育現場、特に徳島県教育委員会との連携も視点に入れながら、徳島県の教育課題に対応できる教員養成の方途を、全学の教員が教育課題を共有する形での合同のFDを実施する体制を整えること通して具体的に検討し、成果を挙げていただくことを期待したい。



評価の根拠となる資料・データ



## 鳴門教育大学における教員養成教育(学士課程)の改善・改革計画

### 鳴門教育大学の理念・目的

「21世紀に生きる人間として豊かな教養を培い、地球的視野に立って総合的に判断できる力量の形成に努めるとともに、教育者として子どもに対する愛情と教育に対する使命感を醸成し、教育に関する専門的知識を深め教育実践力を身につけることによって、専門職としての教員を育成することを旨とする。」

### 学部目標

「教員として必要な基礎的な資質や能力を養うとともに、広い視野に立って教育活動を行い、地域の教育課題に応え、教育の改善に役立てることができる教員の養成を行う。」

### 教員養成大学としての教育方針の明確化

アドミッション・ポリシー(13年度策定, 22年度一部改正)

カリキュラム・ポリシー(22年度)

ディプロマ・ポリシー(23年度)

### 学生の学修への支援体制の整備

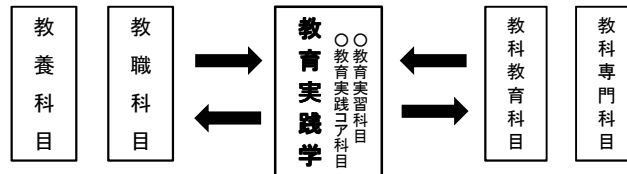
課外活動や就職支援・経済的支援等

### 教員としての資質能力に関する到達目標の明確化

教員の資質能力に関する「鳴門スタンダード」(18年度)

### 教員養成教育のためのカリキュラム開発

「教育実践学」を中核としたコア・カリキュラム(17年4月実施)



### 教員養成教育の内容・方法の構造化と先導的教育研究の開発

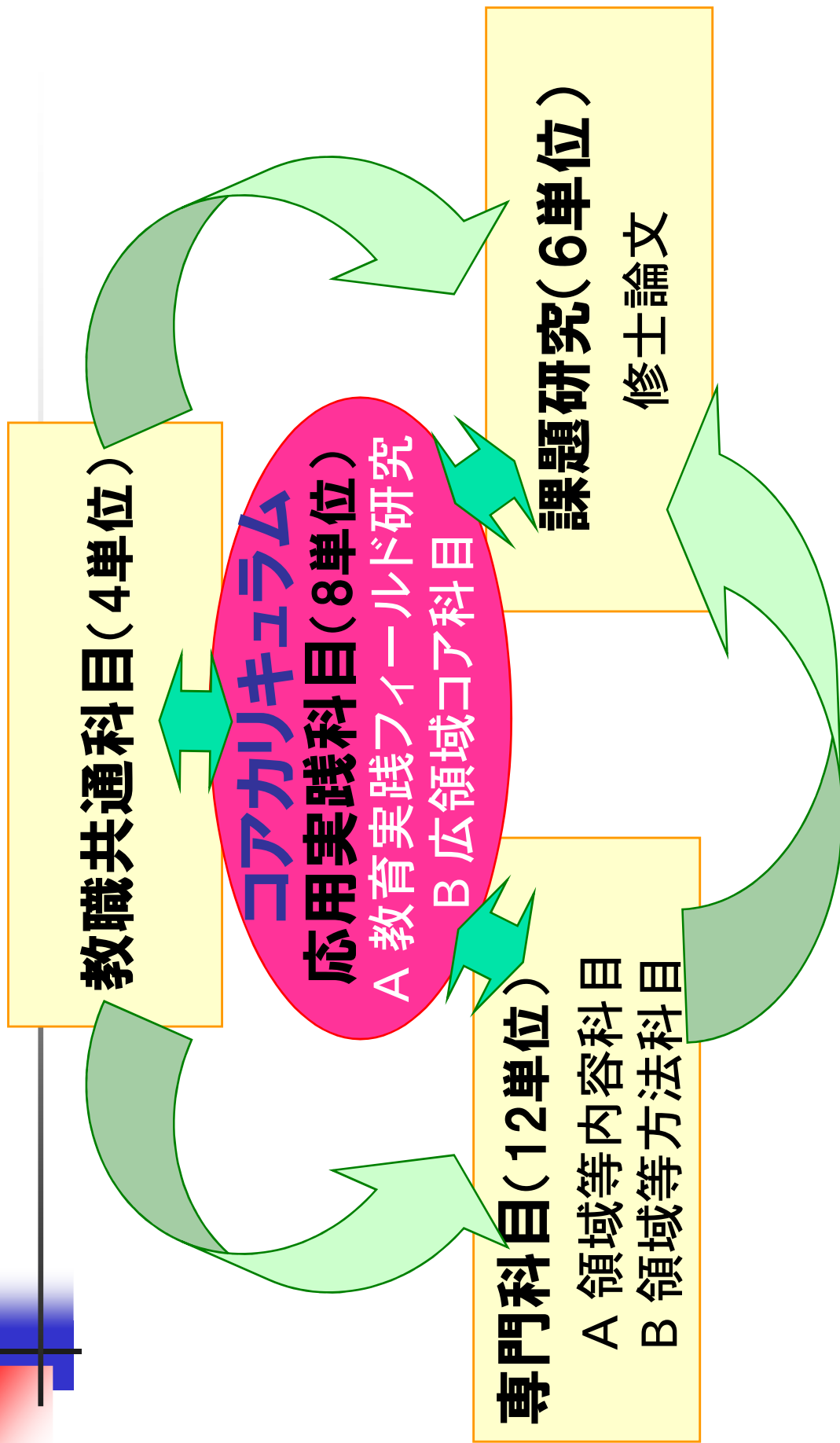
カリキュラムマップの作成(24~25年度)	教員養成教育のガイドラインの作成(24~25年度)	教科専門科目の内容・方法の体系化(教科内容学研究)(24~25年度)	教育実習への参加要件に関する評価基準と教育実習プログラム開発(24~25年度)	学校現場のニーズに応じた先導的教育研究開発(予防教育科学・小学校外国語活動等に関する実践的研究)(17年度~)
-----------------------	---------------------------	------------------------------------	---	---

### 教員養成教育の評価の基準と方法の明確化

「教職実践演習」開講への手立て			学修成果の評価基準(24~25年度)	カリキュラムの適格判定基準(24~25年度)
教員としての資質能力チェックリスト(21年度)	教育実践力形成のためのポートフォリオ(学修キャリアノート)(21年度)	「教職実践演習」シラバス(24年度~)		



# 鳴門教育大学院 学校教育研究科(修士課程)の新教育課程





## 教職実践力について

今日の“正解なき”多様な教育課題に対しては、既習の知識や技能のみで対応するのではなく、それぞれの課題に対してその実態を把握し、分析して計画を立て、実行して評価・検証し、解決へと対応していく主体的・循環的な対応力が求められています。

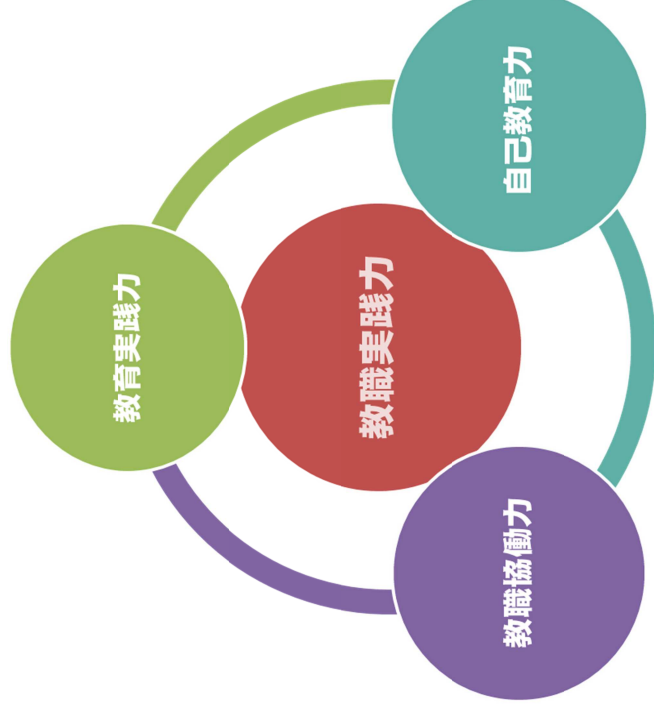
また、教育課題の解決を進めていくため、教員一人ひとりの対応力や関係機関並びに関係者の専門力を結集して、それぞれの課題解決をすすめていく組織的対応力も求められています。こうした学校教育に関する幅広い専門的知識や技能にもとづいた主体的・組織的・循環的な課題対応力を教職実践力と呼びます。

本専門職学位課程においては、高度専門職業人としての教員が有すべき力として教職実践力の養成に努めます。

教職実践力は、

①教育実践力, ②自己教育力, ③教職協働力の

3つの力から成っています。



### 1. 教育実践力に係る4つの力

#### 1) カリキュラム開発力

教育課程の主たる内容である①教育目標, ②指導の重点, ③学年別・教科・科目および特別活動の時間配当, ④学習指導や生徒指導およびキャリア教育指導等の根本となる理論や実践的技能を習得します。

#### 2) 授業実践力

幼稚園，小中高等学校（中高一貫校を含む），特別支援学校における，各教科やそれらに属する科目，道徳，特別活動および総合的な学習の時間について，指導実践の方法や評価などの在り方にかかわる根本となる理論や実践的技能を習得します。

### 3) 生徒指導力

不登校やいじめ，非行などの問題行動に対する理解や指導方法，問題行動への未然対応としての予防・開発的指導法の在り方や発達障害に係る普通学級での交流指導など，児童生徒の学校適応や社会適応への支援・指導の方法や指導・支援体制などの根本となる理論や実践的技能を習得します。

### 4) 学級経営力

学級開きから学年のまとめまで，学級の成長や学級集団の成熟過程における子ども理解や学級指導・ホームルーム指導，および指導要録や通知表の作成などの担任のルーチンワークなどの在り方にかかわる理論や実践的技能を習得します。

## 2. 自己教育力に係る2つの力

### 1) 経験から学ぶ力

教師として直面するさまざまな経験を省察し，学校教育に係るさまざまな活動が有する意味や意義を深求し，教職の責任感や使命感，ならびに実践経験を知識化，理論化することができる力を高めめます。

### 2) 未来に向けて学ぶ力

教師としての自己の課題や学校の中での役割を自覚的にとらえ，自己が目指すべき教師の在り方（教師としてのキャリアビジョン）を把握して，自己の成長目標を設定し，それに向けて学ぶ力を高めめます。

## 3. 教職協働力に係る4つの力

### 1) コミュニケーション力

教職にかかわる主な対人関係である児童生徒，保護者，地域住民，同僚の教職員，他の教職員，行政職員などに対して，指導助言や解説・説明を可能にする知識やスキルにもとづく力を養います。また，相手の意図や思い・気持ちなどにも意識しながらの言語的・非言語的相互対話を可能にする知識やスキルにもとづく力を養います。対人対話とともに内省・省察する自己内対話の力も養います。

### 2) コーディネート力

教職にかかわって対人関係や日程調整などの人的時間的環境調整だけでなく，教科や生徒指導，校務分掌などの職務内容に関して各教育活動分野で体系化したり，分野間を連関させたりする内容的，実務的調整を可能にする知識やスキルにもとづく力を養います。

### 3) リーダーシップ/フォロワーシップ

同僚との協働，先輩教員への指導，リーダーとしての学校教育の組織化などを実現するために，学校教育に関わる人々へ積極



的に関わり、働きかけることのできる力を養います。また、先輩教員等との関係づくりや関係調整力等、先輩教員等と協力しつつ課題解決をはかる力など、フォローとして効果的に振る舞える力を養います。

#### 4) マネジメント力

教育目標にもとづく学校全体の教育活動、学年や校務分掌などの教育部門、学級集団や児童会・生徒会や部活動など、人的、物的な環境や制度などの組織的統括とRPDCAにもとづく活動推進を可能にする知識とスキルにもとづく力を養います。



## 名称変更の概要

事項	記 入 欄			
計画の区分	大学院学校教育研究科専門職学位課程におけるコース名称変更			
フリガナ 設置者	コクリツダクイガクホウジン ナルキョウイクダクイガク 国立大学法人 鳴門教育大学			
フリガナ 大学の名称	ナルキョウイクダクイガクダクイン 鳴門教育大学大学院			
名称変更の内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <p>(現在の名称)</p> <p>大学院学校教育研究科 専門職学位課程 高度学校教育実践専攻</p> <p><u>学校・学級経営コース</u> 英訳名 (<u>School and Classroom Administration</u>)</p> <p><u>学校臨床実践コース</u> 英訳名 (<u>Practice of School Clinical Psychology</u>)</p> <p><u>授業実践・カリキュラム開発コース</u> 英訳名 (<u>Practice of Teaching and Curriculum Development</u>)</p> <p>教員養成特別コース 英訳名 (Special Teacher Training)</p> </td> <td style="width: 5%; border: none; text-align: center;">}</td> <td style="width: 45%; border: none;"> <p>(変更後の名称)</p> <p>大学院学校教育研究科 専門職学位課程 高度学校教育実践専攻</p> <p><u>教職実践力高度化コース</u> 英訳名 (<u>Advanced Educational Practitioner</u>)</p> <p>教員養成特別コース 英訳名 (Special Teacher Training)</p> </td> </tr> </table>	<p>(現在の名称)</p> <p>大学院学校教育研究科 専門職学位課程 高度学校教育実践専攻</p> <p><u>学校・学級経営コース</u> 英訳名 (<u>School and Classroom Administration</u>)</p> <p><u>学校臨床実践コース</u> 英訳名 (<u>Practice of School Clinical Psychology</u>)</p> <p><u>授業実践・カリキュラム開発コース</u> 英訳名 (<u>Practice of Teaching and Curriculum Development</u>)</p> <p>教員養成特別コース 英訳名 (Special Teacher Training)</p>	}	<p>(変更後の名称)</p> <p>大学院学校教育研究科 専門職学位課程 高度学校教育実践専攻</p> <p><u>教職実践力高度化コース</u> 英訳名 (<u>Advanced Educational Practitioner</u>)</p> <p>教員養成特別コース 英訳名 (Special Teacher Training)</p>
<p>(現在の名称)</p> <p>大学院学校教育研究科 専門職学位課程 高度学校教育実践専攻</p> <p><u>学校・学級経営コース</u> 英訳名 (<u>School and Classroom Administration</u>)</p> <p><u>学校臨床実践コース</u> 英訳名 (<u>Practice of School Clinical Psychology</u>)</p> <p><u>授業実践・カリキュラム開発コース</u> 英訳名 (<u>Practice of Teaching and Curriculum Development</u>)</p> <p>教員養成特別コース 英訳名 (Special Teacher Training)</p>	}	<p>(変更後の名称)</p> <p>大学院学校教育研究科 専門職学位課程 高度学校教育実践専攻</p> <p><u>教職実践力高度化コース</u> 英訳名 (<u>Advanced Educational Practitioner</u>)</p> <p>教員養成特別コース 英訳名 (Special Teacher Training)</p>		
名称変更の時期	平成25年4月1日			
新名称の対象年次	平成25年度第1年次から対象			
名称変更の理由	<p>本専攻では、幅広い視点からの問題分析能力・対応力・解決力を有し、学校や地域で指導力を発揮できる教員及び実践的対応力に優れた新入教員を育成することを目的として、平成20年度に現職教員を対象とした3コース、学部卒学生を対象とした1コースを設置し、これまで、学校・学級経営、生徒指導・教育相談、カリキュラム、授業構成・実践等に関する専門的・実践的な教育研究を行うとともに、教育内容等の改善に努めてきた。</p> <p>しかしながら、定員の未充足が創設時からの懸案であり、教育委員会からの意見聴取や院生からの意見等を踏まえ、検討の結果、①教職に関する理論的・実践的知識の習得だけではなく、教師としての学びを実践できるスキルやキャリアに応じた課題解決力を有する教員の育成、②受け入れる現職教員の年齢層を30歳代まで拡大し、幅広い教職キャリアに対応した教師教育を実現、③多様な学生を対象とする新入教員の育成、を改編の基本方針とし、教育組織（コース編成）の見直し、さらに教育課程等の見直しを行うこととした。</p> <p>上記の基本方針に則り、現職教員対象の3コースを「教職実践力高度化コース」の1コースに改編し、①学校運営において指導的役割を担い、地域を先導する学校指導教員（リーダー）、②学年や校務分掌、教科単位の教員組織や集団において中核的役割を担う教員（ミドルリーダー）、③学級経営や生徒指導、教科指導等の教育活動において指導的役割を担う基幹教員（ニューリーダー）を育成するとともに、教育経験と課題に応じた実践力を確実に高めるため、専門科目における履修の選択幅を広げる。</p> <p>学部卒学生を対象とした「教員養成特別コース」では、これまでの小学校教員の養成に加え、中学校教員の養成も行うこととした。</p> <p>また、実習時間の実質化を図り、キャリア課題の多様性に応じた選択型のカリキュラムの導入、さらに教科内容等に関する学習を推進するため、修了要件を現行の「52単位」から「48単位」に変更し、各キャリア層に求められる専門性を深化し、より教育成果を上げる教育内容とする。</p>			

# 教職大学院のコース改編及び新カリキュラムの基本的枠組み

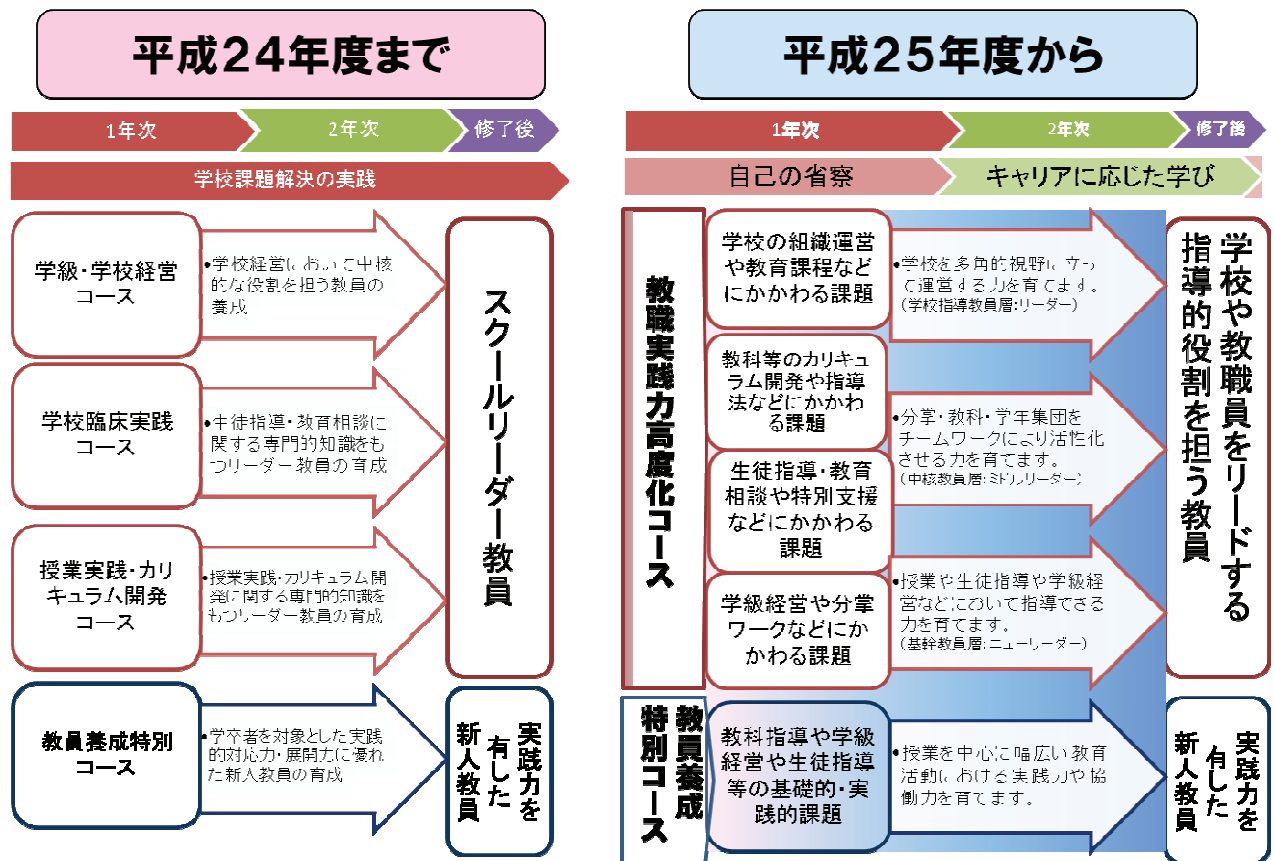
## ○新コース名称

現職教員対象：「教職実践力高度化コース [Advanced Educational Practitioner]」

学校における基幹教員層，中核教員層，学校指導教員層の教員として，教職経験に応じた指導力，教職の実践的専門知識とスキルを深化させるとともに，学校における課題に対応する実践力を確実に高めることをねらいとする。

学卒生対象：「教員養成特別コース [Special Teacher Training]」

児童理解，生徒指導，授業の構想・展開・省察，学級経営，協働等に関する資質能力を備え，意欲的に教職に取り組みことができる実践力を有する新人教員の養成をねらいとする。



## 平成24年度各授業科目区分の成績評価(%)

		評 定					
		S	A	B	C	D	N
学部	教養基礎科目	26	36	23	9	5	0
	教育実践コア科目	24	50	16	7	2	0
	教職共通科目	20	38	23	12	6	0
	専修専門科目	24	36	22	11	8	0
	自由選択科目	18	33	25	13	10	0
大学院 (修士課程)	教職共通科目	25	31	32	8	3	0
	領域等内容科目	48	40	8	1	3	0
	領域等方法科目	52	39	6	0	3	0
	広領域コア科目	38	37	16	5	5	0
	教育実践フィールド研究	61	36	3	0	0	0
	課題研究	79	18	2	0	1	0
大学院 (専門職学位課程)	共通科目	85	15	0	0	0	0
	専門科目	78	21	0	0	1	0
	実習科目	85	15	0	0	0	0

## 成績評価(学部)

成績評価は、担当教員が定期試験の結果及び受講状況等を総合して行います。

評価	評価基準	摘 要	
S	100点～90点	合 格	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A	89点～80点	合 格	基本的な目標を十分に達成している。
B	79点～70点	合 格	基本的な目標を達成している。
C	69点～60点	合 格	基本的な目標を最低限度達成している。
D	59点以下	不 合格	基本的な目標を達成していないので、不合格とし単位を与えない。

(注)再試験の結果合格した場合の評価は、「C」(60点)とする。

## 成績評価(大学院)

成績評価は、担当教員が定期試験の結果及び受講状況等を総合して行います。

評価	評価基準	摘 要	
S	100点～90点	合 格	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
A	89点～80点	合 格	基本的な目標を十分に達成している。
B	79点～70点	合 格	基本的な目標を達成している。
C	69点～60点	合 格	基本的な目標を最低限度達成している。
D	59点以下	不 合格	基本的な目標を達成していないので、不合格とし単位を与えない。



平成25年3月卒業者の大学別就職状況 [教員養成課程]

大 学 名	卒業者数 (A)	正規採用 (B)	臨時的任用 (C)	合計 (D)=(B+C)	平成25年 教員就職率 (正規+臨時) (D/A)	平成24年 教員就職率 (正規+臨時)	保育士への 就職率	大学院等 進学率	平成25年 教員就職率 (正規+臨時) (進学者・保育士 除く)	平成24年 教員就職率 (正規+臨時) (進学者・保育士 除く)	教員・保育士 以外への 就職率	その他 未就職率
北海道教育	708 (729)	198 (229)	278 (213)	476 (442)	67.2%	60.6%	0.1% (0.0%)	8.9% (11.1%)	73.9%	68.2%	16.2% (19.1%)	7.5% (9.2%)
弘 前	163 (164)	52 (64)	39 (26)	91 (90)	55.8%	54.9%	2.5% (1.2%)	8.6% (9.1%)	62.8%	61.2%	24.5% (22.0%)	8.6% (12.8%)
岩 手	167 (168)	46 (64)	24 (21)	70 (85)	41.9%	50.6%	0.0% (0.0%)	8.4% (7.7%)	45.8%	54.8%	36.5% (28.0%)	13.2% (13.7%)
宮城教育	358 (351)	145 (118)	80 (89)	225 (207)	62.8%	59.0%	0.8% (2.8%)	10.3% (11.1%)	70.8%	68.5%	19.3% (18.2%)	6.7% (8.8%)
秋 田	97 (103)	18 (23)	37 (20)	55 (43)	56.7%	41.7%	3.1% (6.8%)	12.4% (12.6%)	67.1%	51.8%	21.6% (27.2%)	6.2% (11.7%)
茨 城	263 (259)	92 (113)	58 (73)	150 (186)	57.0%	71.8%	0.4% (0.0%)	18.3% (11.2%)	70.1%	80.9%	15.6% (12.4%)	8.7% (4.6%)
宇 都 宮	156 (164)	57 (52)	54 (55)	111 (107)	71.2%	65.2%	1.9% (4.3%)	8.3% (12.2%)	79.3%	78.1%	16.0% (14.0%)	2.6% (4.3%)
群 馬	219 (218)	91 (95)	44 (49)	135 (144)	61.6%	66.1%	0.0% (0.0%)	16.0% (10.1%)	73.4%	73.5%	14.2% (17.0%)	8.2% (6.9%)
埼 玉	448 (493)	166 (166)	56 (88)	222 (254)	49.6%	51.5%	1.6% (3.7%)	9.2% (12.2%)	55.5%	61.2%	21.0% (19.7%)	18.8% (13.0%)
千 葉	437 (420)	157 (174)	90 (87)	247 (261)	56.5%	62.1%	3.0% (1.0%)	12.4% (8.1%)	66.8%	68.3%	21.1% (20.7%)	7.1% (8.1%)
東京学芸	623 (628)	212 (201)	169 (186)	381 (387)	61.2%	61.6%	1.1% (1.0%)	14.4% (15.1%)	72.4%	73.4%	11.9% (15.4%)	11.4% (6.8%)
横浜国立	238 (225)	77 (90)	29 (26)	106 (116)	44.5%	51.6%	0.0% (0.0%)	16.0% (16.0%)	53.0%	61.4%	31.9% (22.7%)	7.6% (9.8%)
新 潟	206 (214)	67 (66)	47 (57)	114 (123)	55.3%	57.5%	1.5% (0.5%)	5.8% (12.6%)	59.7%	66.1%	26.7% (17.8%)	10.7% (11.7%)
上越教育	171 (161)	49 (51)	69 (59)	118 (110)	69.0%	68.3%	7.0% (5.0%)	9.9% (9.3%)	83.1%	79.7%	9.4% (10.6%)	4.7% (6.8%)
金 沢	112 (106)	60 (40)	18 (21)	78 (61)	69.6%	57.5%	0.0% (0.9%)	14.3% (15.1%)	81.3%	68.5%	11.6% (15.1%)	4.5% (11.3%)
福 井	94 (98)	14 (16)	33 (34)	47 (50)	50.0%	51.0%	0.0% (0.0%)	25.5% (27.6%)	67.1%	70.4%	20.2% (15.3%)	4.3% (6.1%)
山 梨	115 (111)	25 (32)	28 (34)	53 (66)	46.1%	59.5%	4.3% (1.8%)	17.4% (22.5%)	58.9%	78.6%	25.2% (11.7%)	7.0% (4.5%)
信 州	240 (225)	80 (80)	70 (67)	150 (147)	62.5%	65.3%	0.8% (0.0%)	10.0% (11.6%)	70.1%	73.9%	15.4% (14.7%)	11.3% (8.4%)
岐 阜	224 (214)	81 (90)	64 (45)	145 (135)	64.7%	63.1%	0.0% (0.0%)	19.6% (11.7%)	80.6%	71.4%	12.1% (21.0%)	3.6% (4.2%)
静 岡	296 (264)	109 (94)	75 (66)	184 (160)	62.2%	60.6%	0.3% (2.3%)	12.2% (9.1%)	71.0%	68.4%	19.9% (20.1%)	5.4% (8.0%)
愛知教育	673 (659)	316 (281)	174 (183)	490 (464)	72.8%	70.4%	1.3% (1.2%)	7.7% (10.2%)	80.1%	79.5%	14.1% (12.6%)	4.0% (5.6%)
三 重	153 (144)	57 (67)	36 (28)	93 (95)	60.8%	66.0%	5.2% (3.5%)	9.2% (11.8%)	71.0%	77.9%	14.4% (11.1%)	10.5% (7.6%)
滋 賀	173 (184)	84 (90)	42 (48)	126 (138)	72.8%	75.0%	5.8% (4.9%)	4.0% (6.0%)	80.8%	84.1%	9.8% (9.2%)	7.5% (4.9%)
京都教育	329 (307)	100 (104)	96 (73)	196 (177)	59.6%	57.7%	1.8% (1.6%)	10.6% (16.9%)	68.1%	70.8%	18.2% (16.0%)	9.7% (7.8%)
大阪教育	561 (581)	258 (254)	105 (130)	363 (384)	64.7%	66.1%	0.5% (1.0%)	10.7% (11.9%)	72.9%	75.9%	12.7% (11.5%)	11.4% (9.5%)
兵庫教育	172 (165)	87 (79)	56 (51)	143 (130)	83.1%	78.8%	2.3% (5.5%)	6.4% (9.1%)	91.1%	92.2%	5.8% (4.2%)	2.3% (2.4%)
奈良教育	179 (201)	66 (87)	45 (47)	111 (134)	62.0%	66.7%	2.2% (2.0%)	14.0% (16.9%)	74.0%	82.2%	10.6% (8.0%)	11.2% (6.5%)
和 歌 山	150 (141)	60 (54)	41 (44)	101 (98)	67.3%	69.5%	0.7% (0.0%)	12.0% (14.2%)	77.1%	81.0%	15.3% (10.6%)	4.7% (5.7%)
島 根	161 (166)	33 (36)	62 (63)	95 (99)	59.0%	59.6%	1.2% (1.8%)	14.9% (10.8%)	70.4%	68.3%	18.0% (22.9%)	6.8% (4.8%)
岡 山	289 (282)	120 (116)	67 (46)	187 (162)	64.7%	57.4%	1.4% (2.5%)	11.1% (10.3%)	73.9%	65.9%	20.1% (25.2%)	2.8% (4.6%)
広 島	174 (179)	84 (97)	32 (35)	116 (132)	66.7%	73.7%	0.0% (0.0%)	13.8% (11.2%)	77.3%	83.0%	5.7% (6.7%)	13.8% (8.4%)
山 口	135 (109)	52 (36)	32 (33)	84 (69)	62.2%	63.3%	4.4% (4.6%)	5.9% (5.5%)	69.4%	70.4%	20.0% (12.8%)	7.4% (13.8%)
鳴門教育	110 (110)	52 (53)	31 (35)	83 (88)	75.5%	80.0%	2.7% (2.7%)	14.5% (9.1%)	91.2%	90.7%	4.5% (3.6%)	2.7% (4.5%)
香 川	131 (135)	49 (38)	38 (41)	87 (79)	66.4%	58.5%	3.8% (10.4%)	7.6% (9.6%)	75.0%	73.1%	18.3% (16.3%)	3.8% (5.2%)
愛 媛	130 (138)	57 (45)	17 (25)	74 (70)	56.9%	50.7%	2.3% (2.2%)	12.3% (10.9%)	66.7%	58.3%	22.3% (25.4%)	6.2% (10.9%)
高 知	102 (102)	27 (26)	42 (34)	69 (60)	67.6%	58.8%	1.0% (2.0%)	10.8% (2.9%)	76.7%	61.9%	17.6% (22.5%)	2.9% (13.7%)
福岡教育	481 (436)	138 (133)	154 (148)	292 (281)	60.7%	64.4%	0.0% (0.2%)	10.0% (9.4%)	67.4%	71.3%	15.4% (14.0%)	13.9% (11.9%)
佐 賀	85 (103)	23 (26)	30 (31)	53 (57)	62.4%	55.3%	0.0% (0.0%)	14.1% (11.7%)	72.6%	62.6%	16.5% (22.3%)	7.1% (10.7%)
長 崎	237 (238)	70 (89)	43 (37)	113 (126)	47.7%	52.9%	4.6% (3.4%)	10.5% (9.2%)	56.2%	60.6%	23.2% (20.6%)	13.9% (13.9%)
熊 本	235 (240)	61 (38)	85 (99)	146 (137)	62.1%	57.1%	0.0% (0.4%)	10.6% (12.9%)	69.5%	65.9%	15.3% (18.3%)	11.9% (11.3%)
大 分	110 (99)	39 (24)	23 (35)	62 (59)	56.4%	59.6%	0.9% (0.0%)	18.2% (9.1%)	69.7%	65.6%	16.4% (21.2%)	8.2% (10.1%)
宮 崎	142 (149)	32 (28)	46 (58)	78 (86)	54.9%	57.7%	0.0% (0.7%)	9.2% (12.8%)	60.5%	66.7%	19.7% (18.1%)	16.2% (10.7%)
鹿 児 島	241 (217)	39 (48)	73 (62)	112 (110)	46.5%	50.7%	0.0% (0.5%)	9.1% (8.8%)	51.1%	55.8%	22.4% (27.2%)	22.0% (12.9%)
琉 球	97 (103)	29 (19)	24 (38)	53 (57)	54.6%	55.3%	0.0% (0.0%)	10.3% (13.6%)	60.9%	64.0%	21.6% (19.4%)	13.4% (11.7%)
計	10,585 (10,503)	3,729 (3,726)	2,756 (2,740)	6,485 (6,466)	61.3%	61.6%	1.4% (1.6%)	11.2% (11.5%)	70.1%	70.8%	17.1% (16.8%)	9.0% (8.6%)

(注1)平成25年3月卒業者(平成25年9月30日現在)の数とし、( )内は、平成24年3月卒業者(平成24年9月30日現在)の数である。

(注2)「平成25年教員就職率(進学者・保育士除く)」は、卒業者数から大学院等への進学者と保育士への就職者を除いた数を母数とした場合の教員就職率(%)である。

(注3)保育士とは、保育所および認定こども園への就職者である。

※パーセントの表記は、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。





## 研究活動の実施状況(平成24年度)

区 分	教養教育・ 教育科学	教科・ 領域科学	教科専門	計
著書(単著)	3	0	0	3
著書(共著・分担)	25	8	12	45
著書(翻訳[単訳])	1	0	1	2
著書(翻訳[共訳])	1	2	0	3
論文(単著)	9	9	15	33
論文(共著)	17	8	47	72
プロシーディング(単著)	1	0	3	4
プロシーディング(共著)	0	0	1	1
紀要等(単著)	18	13	17	48
紀要等(共著)	45	21	24	90
その他(単著)	11	9	17	37
その他(共著)	14	12	10	36
作品・演奏・競技(国際的・全国レベル)	0	0	11	11
作品・演奏・競技(国際的・全国レベル以外[委嘱を受けたもの])	0	0	17	17
作品・演奏・競技(国際的・全国レベル以外[委嘱を受けたもの以外])	0	0	17	17
国際学会(シンポジウム、招待講演)	4	0	5	9
国際学会(発表)	2	14	21	37
国際学会(連名)	12	4	22	38
国内学会(全国)(シンポジウム、招待講演)	14	3	11	28
国内学会(全国)(発表)	34	25	50	109
国内学会(全国)(連名)	21	15	84	120
国内学会(中・四国、関東等のブロック)(シンポジウム、招待講演)	1	2	1	4
国内学会(中・四国、関東等のブロック)(発表・連名)	0	0	0	0
教育関連研修会(全国レベル)	9	0	0	9
教育関連研修会(県・中・四国・関東等ブロックレベル)	42	0	0	42
教育関連研修会(発表・連名)	0	3	2	5



## 平成24年度研究紀要等と収録論文数

紀 要 名	巻	論文数	備考
鳴門教育大学研究紀要	28	35	
鳴門教育大学学校教育研究紀要	27	11	
鳴門教育大学授業実践研究	11	12	
鳴門教育大学情報教育ジャーナル	10	7	
鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要	3	2	

鳴門教育大学学校教育学部附属幼稚園研究紀要	46	4	
鳴門教育大学学校教育学部附属小学校研究紀要	54	12	
鳴門教育大学附属中学校研究紀要	56	10	
鳴門教育大学附属特別支援学校研究紀要	42	3	



○教師の学習指導・保育実践力の向上

研究業績等	道徳教育を考える —多様な声に応答するために—
	小学校体育授業における教師の実践的知識への介入が教授活動に及ぼす効果
	中学校技術・家庭(技術分野)における学習支援のシステム化
	中学校英語科授業のプラス1時間にどのように対応するか —英語スキルアップトレーニング法の開発— (その2)
	中学校英語科授業における教師の英語使用に関する調査
	英語科教員養成課程における 教室英語力育成のための実践的試み
	外国語活動における教師の英語使用に関する実態調査
	幼稚園でのプレイセラピーの実践研究
	高等学校における英文法指導の実験的試み —タスクで文法の定着をはかる—
	中学校理科学習における新教材への対策 —DNA抽出とその授業実践—
	中学校理科における「ちりめんじゃこ」を用いた「進化」・「生物の多様性」の学習
	小学校理科におけるウミホタルを用いた観察・実験の検討
	小中高等学校の理科教材としての酵素の可能性
	中学校技術・家庭科(家庭分野)における日常食の調理に関する授業実践 —地域の食材を生かして—
	小学校家庭科へ実験教材を導入した成果と課題 - 「初等家庭科教育論」における授業内容の改善 -
	商業高校における「自立した生徒」の育成方法に関する研究
	「数理的な処理のよさ」の感得に関する研究 -他教科の教科書を用いた算数の授業を通して-
	数学のよさを実感させる授業開発に関する研究
	小学校社会科における習得・活用型授業の構想と展開 —単元「住民の政治参加」の場合—
	中学校技術・家庭科(家庭分野)における日常食の調理に関する授業実践 —地域の食材を生かして—
	小学校家庭科へ実験教材を導入した成果と課題 - 「初等家庭科教育論」における授業内容の改善 -
	社会系教科における授業者による学習評価の論理 —「決定・判断」を基盤とした授業の場合—
	高等学校における絵本を取り入れた住教育の授業実践
	中学校における絵本を取り入れた住教育の授業実践
	住生活領域の指導の実態と課題 —中学校教員に対する調査から—
	幼稚園でのプレイセラピーの実践研究 —幼児の「育つ力」と子育て支援としての効果—

## ○教員養成カリキュラム・授業評価

研究業績等	教職大学院における教材開発と実践を活用した社会科教師の専門性 －裁判員制度の導入に対応した教科書教材開発を事例として－
	教職大学院における確かな学校改善力育成プログラムの開発的研究 －学校の課題を顕在化し，課題解決を促す学校改善支援ツールとマニュアルの開発－
	教員としての資質能力の向上に関する考察 －集団討論の指導から－
	OJT型スクールリーダー育成カリキュラムの開発的研究 －鳴門教育大学教職大学院におけるスクールリーダー育成の実践－ pp149-160
	教職大学院における確かな学校改善力育成プログラムの開発的研究
	知性と感性を結ぶ協同的学習プログラムの開発 －教育実践フィールド研究における協同を基盤として－
	教育プログラムとしての四国遍路歩きの可能性
	「鳴門教育大学一般英語カリキュラムの改善に向けた基礎的研究」 pp. 37-44.
	教科授業力の育成をめざす自己省察型教員養成プログラムの開発 －「授業力評価スタンダード」を活用した社会科教育法の実践例－
	「複数発表形式の修士論文構想発表会：グループセッションの可能性
	「指導力」を練る「パフォーマンス評価」と「作文発達基準表」づくり
	海外日本語教育実習における現職教員の変容的学習に関する事例研究
国際教育カリキュラムの構築	

## ○ 学校現場のニーズに応じた先端的教育研究

研究業績等	学校予防教育の革新 —なぜ、これまでの教育が通用しないのか—
	学校において自己信頼心（自信）を育成するユニバーサル予防教育 —教育目標の構成とそのエビデンス—
	学校におけるいじめ予防を目的としたユニバーサル予防教育 — 教育方法の開発とその実践 —
	学校予防教育プログラム “感情の理解と対処の育成
	大学生への喫煙防止教育の効果について —スライドとグループ活動を通して—
	予防教育科学に基づく「新しい学校予防教育」
	児童期の健康・適応に及ぼす正負感情易感性与感情表出性の影響
	正感情と認知的再解釈コーピングの関連について —高校生における抑うつ予防プログラム構築のための基礎研究—
	小学校外国語活動における教師の英語使用に関する理論的考察 —教室英語力育成のための教員研修プログラムの開発を目指して—
	小学校外国語活動における「英語絵本」の活用—コミュニケーション能力の素地を育むために— 小学校外国語活動における「読む」ことへの第一歩としての絵本の活用
	Effects of Positive and Negative Affect and Emotional Suppression on Short-term Life Satisfaction and Depression
	「遊誘財データベース」を活用した保育者養成
	教員の不安低減に向けた試み：特別支援教育における専門性の捉え方
	幼小接続の教育課程作成に向けて
	子どもの強迫性障害 診断・治療ガイドライン
高機能広汎性発達障害幼児とその親へのペアレント・トレーニングによる効果の検討	
読み困難のアセスメント —ADHD児における読み困難の実態—	

## ○ 地域貢献（防災教育含む）

研究業績等	<p>大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究（Ⅰ）          ； 鈴鹿市中学校における生徒質問紙調査結果より          大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究（Ⅱ）          ； 鈴鹿市中学校における生徒質問紙調査結果より</p>
	<p>自校が取り組むべき教育課題の可視化と共有 『ワークショップ型校内研修』          新規採用教員の育成に関する課題と対応 『教務主任の仕事術 ミドルリーダー実践マニュアル』</p>
	<p>「ワークショップ型校内研修」充実化・活性化のための戦略&amp;プラン43</p>
	<p>大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践的研究（Ⅰ）          大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践的研究（Ⅱ）</p>
	<p>大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究（Ⅰ）          ； 本学と鈴鹿市教育委員会との連携事業に関する学校支援の目的と経過</p>
	<p>「元気のでる学校づくり」の理論と実践          大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究（Ⅱ）          ； 鈴鹿市中学校における生徒質問紙調査結果より</p>
	<p>学校防災最前線</p>
	<p>大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究（Ⅱ）          — 鈴鹿市中学校における生徒質問紙調査結果より —          大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究（Ⅰ）          — 本学と鈴鹿市教育委員会との連携事業に関する学校支援の目的と経過 —</p>
	<p>大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実証研究（Ⅱ）          大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実証研究（Ⅰ）</p>
	<p>大学・教育委員会・学校と連携した教育改革に関する実践研究（Ⅰ）          — 本学と鈴鹿市教育委員会との連携事業に関する学校支援の目的と経過 —          大学・教育委員会・学校と連携した教育改革に関する実践研究（Ⅱ）          — 鈴鹿市中学校における生徒質問紙調査結果より —</p>
	<p>大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究（Ⅰ）          — 本学と鈴鹿市教育委員会との連携事業に関する学校支援の目的と経過 —          大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究（Ⅱ）          — 鈴鹿市中学校における生徒質問紙調査結果より —</p>
	<p>地域特別支援連携協議会の現状と課題（2）          — 各地域特別支援連携協議会報告書と市町村担当者へのアンケートをとおして—          小学校教員の個別の指導計画の作成力と活用向上のための研修プログラムの検討</p>
	<p>大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践的研究（Ⅰ）          — 大学と鈴鹿市教育委員会との連携事業に関する学校支援の目的と経過 —          大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践的研究（Ⅱ）          — 鈴鹿市中学校における生徒質問紙調査結果より —</p>
	<p>重度・重複障がいのある人と地域住民との関係形成の促進に関する研究</p>
	<p>発達障害児の親に対するペアレント・トレーニングの効果          — ケースによる違いについて —</p>
	<p>軽度発達障害分野における治療教育的支援事業『にじいろプロジェクト』の取り組み          — 特別支援相談室「にじいろ教室」の実践報告と今後の展望 —</p>
	<p>トップ・セルフ ベース教育 構成大目標「ソーシャル・スキルの育成」</p>
	<p>TOP SELF ベース教育「向社会性の育成」          — 大目標「自立性の育成・対人関係性の育成」を実現するための目標構成 —</p>



## 平成24年度 鳴門教育大学・研究支援プロジェクト

趣旨・目的 教育組織の枠にとらわれることなく組織を越えた新規(連携)事業(プロジェクト)創出のために当該組織(チーム)に予算措置。本学における個性・特色のある優れた取組を支援する。

申請件数 16件

採択件数 9件

所属コース等	代表者	プロジェクト事業名
幼年発達支援コース	塩路 晶子	保育実践力を育成する教育プログラムに関する研究 －乳児の遊びと保護者支援に－
臨床心理士養成コース	小倉 正義	高等学校における発達障害のある生徒への支援 －二次障害の予防とケアに注目して－
言語系コース (英語)	藪下 克彦	全学対象一般英語カリキュラム改善に向けた基礎的研究
社会系コース	大石 雅章	遍路文化を活かした教師力育成
自然系コース (数学)	佐伯 昭彦	質の高い算数・数学科担当教員育成のための指導内容の構成と教材開発 －附属学校との連携による専門教育機能の充実－
自然系コース(理科)	早藤 幸隆	鳴門教育大学サイエンス・パートナーシップ事業 －科学技術力と知的探究心を育む広領域型科学実験の実践－
生活・健康系コース (技術・工業・情報)	宮下 晃一	鳴門海峡の特徴的な自然環境を積極的に活用するための総合的研究
学校・学級経営コース	佐古 秀一	大学と教育委員会と連携した学校評価システム改善プロジェクト
学校臨床実践コース	阿形 恒秀	徳島県における今後の人口減少に対応した教育の在り方の研究 －徳島県教育委員会との連携協力による研究の推進－



## 平成24年度 教育支援講師・アドバイザー等派遣事業実績表

	氏名	所属 (専攻・コース)	内 容	派遣日	派遣先
1	久我 直人	学校・学級経営コース	10年経験者に求められる『協働力』	平成24年4月4日	徳島県立総合教育センター（板野町）
2	香西 武	自然系コース（理科）	スカイプを利用した海外交流について、その準備と運用	平成24年4月23日	香長小学校（香美市）
3	久我 直人	学校・学級経営コース	学校教育目標具現化のための具体的方策について	平成24年4月26日	国府小学校（徳島市）
4	大谷 博俊	特別支援教育専攻	障害児理解と移行支援	平成24年4月26日	障害者交流センター（徳島市） （依頼先：徳島県特別支援学校進路担当者連絡協議会）
5	皆川 直凡	人間形成コース	児童期の心の発達と教育	平成24年4月28日	附属小学校（徳島市）
6	香西 武	自然系コース（理科）	エチオピア、ボレ小学校とのスカイプを使った国際交流について	平成24年5月10日	香長小学校（香美市）
7	井上 とも子	特別支援教育専攻	聾学校における「個別の指導計画」の作成について	平成24年5月10日	徳島県立聾学校（徳島市）
8	伴 恒信	人間形成コース	（こころ）を培う世界の学校教育 ーアメリカ・タイを中心にー	平成24年5月13日	徳島ユネスコ協会（徳島市）
9	村川 雅弘	授業実践・カリキュラム開発コース	地域環境を活かした生活科総合の実践	平成24年5月14日	片地小学校（香美市）
10	阪根 健二	学校・学級経営コース	・鳴門教育大学大学院の説明 ・新聞について	平成24年5月17日	穴吹中学校（美馬市）
11	中津 郁子	臨床心理士養成コース	保護者を支え、協働する保育のために	平成24年5月18日	小松島幼稚園（小松島市） （依頼先：小松島市幼稚園教育研究協議会）
12	皆川 直凡	人間形成コース	児童期の心の発達と教育	平成24年5月19日	附属小学校（徳島市）
13	小澤 大成	国際教育コース	地球・月・太陽の不思議	平成24年5月21日	芝田幼稚園（小松島市）
14	井上 とも子	特別支援教育専攻	発達障害幼児の理解と特別支援のあり方について	平成24年5月23日	富岡幼稚園（阿南市） （依頼先：横見幼稚園）
15	小倉 正義	臨床心理士養成コース	支援をつなぐために	平成24年5月24日	三好高等学校（三好市）
16	湯口 雅史	生活・健康系コース（保健体育）	体育学習の単元構成と進め方	平成24年5月24日	太田小学校（美馬郡）
17	高原 光恵	特別支援教育専攻	連携機関をつなぐ資料のあり方：子どもへの適切な支援のために	平成24年5月28日	ねむのき（松茂町） （依頼先：育児ファイル子どものポートフォリオをつくらう会）
18	久我 直人	学校・学級経営コース	学校経営の実践と改善のポイント	平成24年5月30日	徳島科学技術高等学校（徳島市）
19	中津 郁子	臨床心理士養成コース	幼児期の子育てについて	平成24年6月1日	小松島幼稚園（小松島市）
20	大谷 博俊	特別支援教育専攻	校内支援委員会（キャリア教員推進委員会）	平成24年6月1日	ひのみね支援学校（小松島市）
21	畑江 美佳	言語系コース（英語）	絵本活用における表現豊かな外国語活動	平成24年6月3日	桑島小学校（鳴門市）
22	井上 とも子	特別支援教育専攻	①発達障害児の理解と学校における対応（問題行動への対応を含む） ②通級指導教室での指導方法について	平成24年6月4日	富岡小学校（阿南市）
23	湯口 雅史	生活・健康系コース（保健体育）	体育学習の単元構成と進め方	平成24年6月5日	太田小学校（美馬郡）
24	木下 光二	教員養成特別コース	自ら学びを拓く～よき生活者としての資質や能力を確かならなくむ教師の役割～	平成24年6月7日	小松島小学校（小松島市） （依頼先：小松島市小教研研修係校長）
25	端村 達也	教員養成特別コース	第52回鳴門市小学校体操発表会	平成24年6月7日	鳴門7ミナリユール（鳴門市） （依頼先：堀江南小学校）
26	田村 隆宏	幼年発達支援コース	乳幼児期のしつけのポイント	平成24年6月8日	新野幼稚園（阿南市）
27	八幡 ゆかり	特別支援教育専攻	特別支援教育の理念や実践課題について	平成24年6月9日	助任小学校（徳島市）
28	久我 直人	学校・学級経営コース	①学校運営・経営「学級経営の実践と改善のポイント」 ②自他の大切さを認め合い、共にたくましく生きる力を育てる人権教育の創造	平成24年6月12日	重清東小学校（美馬市）
29	秋田 美代	自然系コース（数学）	算数・数学学習に対する興味・関心を高める指導法	平成24年6月13日	北阿万小学校（南あわじ市）
30	湯口 雅史	生活・健康系コース（保健体育）	体育学習の単元構成と進め方	平成24年6月14日	北灘東小学校（鳴門市） （依頼先：鳴門市小学校体育部会）

	氏名	所属 (専攻・コース)	内容	派遣日	派遣先
31	湯口 雅史	生活・健康系コース（保健体育）	体育学習の単元構成と進め方	平成24年6月15日	太田小学校（美馬郡）
32	木下 光二	特別支援教育専攻	幼児教育及び幼小連携について	平成24年6月17日	高川原幼稚園（石井町）
33	井上 とも子	特別支援教育専攻	特別な教育的支援を要する子どもへの学校ぐるみの支援	平成24年6月18日	城西中学校（徳島市）
34	埴安 利秀	芸術系コース（音楽）	合唱に関する指導・助言	平成24年6月18日	飯尾敷地小学校（吉野川市）
35	幾田 伸司	言語系コース（国語）	国語科授業作りに関する相談・支援	平成24年6月21日	八幡小学校（阿波市）
36	梅津 正美	社会系コース	平成24年度兵庫県小学校社会科研究大会職員研修会講師	平成24年6月22日	中田小学校（淡路市）
37	福井 典代	生活・健康系コース（家庭）	被服分野の実験・実習に関する授業実践	平成24年6月22日	佐古小学校（徳島市）
38	湯口 雅史	生活・健康系コース（保健体育）	体育学習の単元構成と進め方	平成24年6月22日	太田小学校（美馬郡） （依頼先：美馬市・郡小体連会長）
39	香西 武	自然系コース（理科）	野外での地層観察指導	平成24年6月29日	立川林道（勝浦町） （依頼先：川田中小学校）
40	皆川 直凡	人間形成コース	児童期の心の発達と教育	平成24年6月23日	附属小学校（徳島市）
41	秋田 美代	自然系コース（数学）	主体性を高め、創造力の基礎を育成する指導法	平成24年6月26日	徳島北高等学校（徳島市）
42	八幡 ゆかり	特別支援教育専攻	自立活動の指導について～自立活動の位置づけと内容～	平成24年6月28日	板野支援学校（板野町）
43	阿形 恒秀	学校臨床実践コース	不登校や不応など問題を抱える生徒の内面理解と支援	平成24年7月3日	川島高等学校（吉野川市）
44	松井 敦典	生活・健康系コース（保健体育）	みんなが泳ぎを楽しめる水泳の学習指導	平成24年7月3日	昭和小学校（徳島市）
45	小倉 正義	臨床心理士養成コース	自閉症児への学習支援についての授業研究	平成24年7月3日	加茂名小学校（徳島市）
46	梅津 正美	社会系コース	平成24年度兵庫県小学校社会科研究大会に向けての授業研究会	平成24年7月6日	中田小学校（淡路市）
47	井上 とも子	特別支援教育専攻	発達障害児についての理解と支援のあり方ー通常学級での支援を中心にー	平成24年7月6日	鳴門市第一小学校（鳴門市）
48	余郷 裕次	言語系コース（国語）	「絵本の仕掛けと読み聞かせの効果」について	平成24年7月10日	鴨島第一中学校（吉野川市）
49	山森 直人	言語系コース（英語）	英語学習と国際理解	平成24年7月10日	県立川島中学校（吉野川市）
50	阪根 健二	学校・学級経営コース	教職大学院の説明、情報モラル教育	平成24年7月11日	脇町高等学校（美馬市）
51	小倉 正義	臨床心理士養成コース	自閉症児への学習支援についての授業研究	平成24年7月12日	加茂名小学校（徳島市）
52	梶井 一暁	人間形成コース	歴史と比較からみる教育	平成24年7月13日	徳島市立高等学校（徳島市）
53	佐藤 亨	学校臨床実践コース	刑を終えて出所した人々	平成24年7月19日	阿南工業高等学校（阿南市）
54	小倉 正義	臨床心理士養成コース	ソーシャルスキルトレーニング及び支援をつなぐために	平成24年7月19日	みなと高等学園学校（小松島市）
55	佐藤 公子	特別支援教育専攻	教育的ニーズに応じた子どもへの支援	平成24年7月19日	高原小学校（石井町）
56	大谷 博俊	特別支援教育専攻	小学部から高等部までの一貫した進路指導のあり方について	平成24年7月20日	鴨島支援学校（吉野川市）
57	端村 達也	教員養成特別コース	体づくり運動ボール	平成24年7月23日	鳴門西小学校（鳴門市）
58	余郷 裕次	言語系コース（国語）	絵本の仕掛けとその読み聞かせの効果	平成24年7月23日	城西高等学校（徳島市）
59	香西 武	自然系コース（理科）	地質に関するフィールドワーク	平成24年7月23日	海部郡海陽町穴喰浦周辺 （依頼先：富岡西高等学校）
60	松井 敦典	生活・健康系コース（保健体育）	みんなが泳ぎを楽しめる水泳の学習指導	平成24年7月24日	林崎小学校（鳴門市） （依頼先：鳴門市青少年会館 NPO法人ヒューライツ鳴門）
61	松井 敦典	生活・健康系コース（保健体育）	みんなが泳ぎを楽しめる水泳の学習指導	平成24年7月24日	堀江南小学校（鳴門市） （依頼先：鳴門市青少年会館 NPO法人ヒューライツ鳴門）

	氏名	所属 (専攻・コース)	内 容	派遣日	派遣先
62	端村 達也	教員養成特別コース	体づくり運動ボール	平成24年7月25日	鳴門西小学校 (鳴門市)
63	佐藤 公子	特別支援教育専攻	教育的ニーズに応じた子どもへの支援	平成24年7月25日	高原小学校 (石井町)
64	佐藤 公子	特別支援教育専攻	教育的ニーズに応じた子どもへの支援	平成24年7月26日	高原小学校 (石井町)
65	田中 弘之	生活・健康系コース (保健 体育)	第58回徳島県小学校体育指導者講習会	平成24年7月27日	阿南市文化会館・富岡公民館 (阿南市) (依頼先: 徳島県小学校体育連盟会長)
66	藤田 雅文	生活・健康系コース (保健 体育)	第58回徳島県小学校体育指導者講習会	平成24年7月27日	阿南市文化会館・富岡公民館 (阿南市) (依頼先: 徳島県小学校体育連盟会長)
67	皆川 直凡	人間形成コース	児童期の心の発達と教育	平成24年7月28日	附属小学校 (徳島市)
68	松井 敦典	生活・健康系コース (保健 体育)	みんなが泳ぎを楽しめる水泳の学習指導	平成24年7月30日	沖洲小学校 (徳島市)
69	栗田 高明	自然系コース (理科)	放射線を正しく知る	平成24年7月31日	徳島県立総合教育センター (板野町)
70	松井 敦典	生活・健康系コース (保健 体育)	みんなが泳ぎを楽しめる水泳の学習指導	平成24年7月31日	沖洲小学校 (徳島市)
71	小坂 浩詞	学校臨床実践コース	・児童生徒理解について ・教育相談について	平成24年8月1日	直島幼稚園 (直島町)
72	山田 芳明	芸術系コース (美術)	お話の絵 (読書感想画) の指導について	平成24年8月1日	附属小学校 (徳島市) (依頼先: 徳島市小学校研究会園工部会長)
73	栗田 高明	自然系コース (理科)	放射線について	平成24年8月2日	徳島県立総合教育センター (板野町)
74	中津 郁子	臨床心理士養成コース	幼児期の子育てについて	平成24年8月3日	小松島幼稚園 (小松島市)
75	余郷 裕次	言語系コース (国語)	絵本の仕掛けとその読み聞かせの効果	平成24年8月3日	城北高等学校 (徳島市)
76	湯口 雅史	生活・健康系コース (保健 体育)	体育学習の単元構成と進め方	平成24年8月9日	太田公民館 (美馬郡) (依頼先: 美馬市・郡小体連会)
77	阪根 健二	学校・学級経営コース	①生徒指導 (教育相談等について) ②学級・学校経営 について	平成24年8月16日	国府中学校 (徳島市)
78	佐藤 公子	特別支援教育専攻	教育的ニーズに応じた子どもへの支援	平成24年8月16日	昭和小学校 (徳島市)
79	伊藤 陽介	生活・健康系コース (技 術・工業・情報)	情報技術及び情報技術教育	平成24年8月16日	龍雲中学校 (高松市)
80	久我 直人	学校・学級経営コース	学級経営の実践と改善のポイント	平成24年8月20日	州浜中学校 (洲本市) (依頼先: 洲本市教育委員会)
81	秋田 美代	自然系コース (数学)	主体性を高め、創造力の基礎を育成する指導法	平成24年8月23日	太田小学校 (美馬郡)
82	頃安 利秀	芸術系コース (音楽)	合唱に関する指導・助言 (発声クリニック)	平成24年8月23日	撫養小学校 (鳴門市) (依頼先: 鳴門市小学校教育研究会音楽部会)
83	尾崎 士郎	生活・健康系コース (技 術・工業・情報)	小学校図画工作科における木工道具の実技指導と、木材 による特性の違いについて	平成24年8月23日	鳴門市第一小学校 (鳴門市) (依頼先: 鳴門市小教研図画工作部会)
84	梅津 正美	社会系コース	平成24年度兵庫県小学校社会科研究大会職員研修会講師	平成24年8月24日	中田小学校 (淡路市)
85	藤村 裕一	現代教育課題総合コース	校務の情報化の在り方	平成24年8月27日	辻小学校 (三好市) (依頼先: 三好郡市小学校教育研究会会長)
86	山田 芳明	芸術系コース (美術)	『造形表現』『図画工作』『美術家』の題材開発、指導 法、授業評価などについての講話や実技指導	平成24年8月27日	三好教育センター (三好市) (依頼先: 三好郡市幼稚園教育研究協議会会 長)
87	秋田 美代	自然系コース (数学)	算数・数学学習に対する興味・関心を高める指導法	平成24年8月29日	北阿万小学校 (南あわじ市)
88	木村 直子	幼年発達支援コース	・保育所における発達障害をうたがわれる子どもの個別 指導 ・集団適応の難しい子どもへの支援	平成24年8月29日	芝原保育所 (徳島市)
89	八幡 ゆかり	特別支援教育専攻	沖洲小学校特別支援学級授業研究会及び情報交換会	平成24年8月29日	沖洲小学校 (徳島市)
90	末内 佳代	学校臨床実践コース	心と学習の支援教育	平成24年8月29日	脇町高等学校 (美馬市)
91	余郷 裕次	言語系コース (国語)	絵本の読み聞かせの教育的効果	平成24年8月29日	三加茂中学校 (東みよし町)
92	田中 弘之	生活・健康系コース (保健 体育)	鳴門渦潮高等学校と鳴門教育大学との高大連携事業	平成24年8月29日	鳴門教育大学 (鳴門市) (依頼先: 鳴門渦潮高等学校)

	氏名	所属 (専攻・コース)	内 容	派遣日	派遣先
93	松井 敦典	生活・健康系コース(保健体育)	鳴門渦潮高等学校と鳴門教育大学との高大連携事業	平成24年8月29日	鳴門教育大学(鳴門市) (依頼先: 鳴門渦潮高等学校)
94	松井 敦典	生活・健康系コース(保健体育)	鳴門渦潮高等学校と鳴門教育大学との高大連携事業	平成24年9月4日	鳴門教育大学(鳴門市) (依頼先: 鳴門渦潮高等学校)
95	南 隆尚	生活・健康系コース(保健体育)	鳴門渦潮高等学校と鳴門教育大学との高大連携事業	平成24年9月4日	鳴門教育大学(鳴門市) (依頼先: 鳴門渦潮高等学校)
96	松井 敦典	生活・健康系コース(保健体育)	鳴門渦潮高等学校と鳴門教育大学との高大連携事業	平成24年9月5日	鳴門教育大学(鳴門市) (依頼先: 鳴門渦潮高等学校)
97	南 隆尚	生活・健康系コース(保健体育)	鳴門渦潮高等学校と鳴門教育大学との高大連携事業	平成24年9月5日	鳴門教育大学(鳴門市) (依頼先: 鳴門渦潮高等学校)
98	松井 敦典	生活・健康系コース(保健体育)	鳴門渦潮高等学校と鳴門教育大学との高大連携事業	平成24年9月6日	鳴門教育大学(鳴門市) (依頼先: 鳴門渦潮高等学校)
99	南 隆尚	生活・健康系コース(保健体育)	鳴門渦潮高等学校と鳴門教育大学との高大連携事業	平成24年9月6日	鳴門教育大学(鳴門市) (依頼先: 鳴門渦潮高等学校)
100	島田 恭仁	特別支援教育専攻	軽度発達障害の児童に対する学習面での支援	平成24年9月7日	洲本市役所(洲本市) (依頼先: 洲本市教育委員会)
101	福井 典代	生活・健康系コース(家庭)	全国中学生創造ものづくり教育フェア2次審査	平成24年9月22日	徳島県立総合教育センター(板野町) (依頼先: 徳島県中学校技術・家庭科研究会)
102	速水 多佳子	生活・健康系コース(家庭)	全国中学生創造ものづくり教育フェア2次審査	平成24年9月22日	徳島県立総合教育センター(板野町) (依頼先: 徳島県中学校技術・家庭科研究会)
103	尾崎 士郎	生活・健康系コース(技術・工業・情報)	第13回 全国中学生創造ものづくり教育フェア 木工チャレンジコンテスト 徳島県予選	平成24年9月22日	徳島県総合教育センター(板野町) (依頼先: 徳島県中学校技術・家庭科研究会)
104	皆川 直凡	人間形成コース	児童期の心の発達と教育	平成24年9月22日	附属小学校(徳島市)
105	原 卓志	言語系コース(国語)	ことばについて考える(毎日使っている日本語に興味を持つ)	平成24年9月24日	川島高等学校(吉野川市)
106	高原 光恵	特別支援教育専攻	連携機関をつなぐ資料のあり方: 子どもへの適切な支援のために	平成24年9月27日	ねむのき(松茂町) (依頼先: 育児ファイル子どものポートフォリオをつくらう会)
107	余郷 裕次	言語系コース(国語)	絵本の読み聞かせの教育的効果	平成24年9月27日	三加茂中学校(東みよし町)
108	阿形 恒秀	学校臨床実践コース	生徒理解と生徒指導 ~教師のかかわりと生徒の成長~	平成24年10月2日	徳島北高等学校(徳島市)
109	井上 とも子	特別支援教育専攻	発達障害児の理解と学校における対応	平成24年10月3日	成稔幼稚園(鳴門市)
110	前田 英雄	生活・健康系コース(家庭)	食物・栄養系に関する内容	平成24年10月9日	洲本高等学校(洲本市)
111	速水 多佳子	生活・健康系コース(家庭)	教員養成系(小中高)に関する内容	平成24年10月9日	洲本高等学校(洲本市)
112	眞野 美穂	社会系コース	外国語系に関する内容	平成24年10月9日	洲本高等学校(洲本市)
113	末内 佳代	学校臨床実践コース	心理系に関する内容	平成24年10月9日	洲本高等学校(洲本市)
114	香西 武	自然系コース(理科)	地質に関するフィールドワーク	平成24年10月11日	土佐山田町新改西の谷周辺(香美市) (依頼先: 香美市教育委員会)
115	梅津 正美	社会系コース	平成24年度兵庫県小学校社会科研究大会職員研修会講師	平成24年10月12日	中田小学校(淡路市)
116	佐藤 公子	特別支援教育専攻	教育的ニーズに応じた児童支援について	平成24年10月12日	高原小学校(石井町)
117	井上 とも子	特別支援教育専攻	発達障害児の理解と学校における対応	平成24年10月15日	みなと高等学園学校(小松島市)
118	曾根 直人	生活・健康系コース(技術・工業・情報)	情報セキュリティについて	平成24年10月16日	鳴門渦潮高等学校大津キャンパス(鳴門市)
119	幾田 伸司	言語系コース(国語)	国語科授業づくりに関する相談・支援	平成24年10月16日	加茂名南小学校(徳島市)
120	石坂 広樹	国際教育コース	君たちの天分を生かそう	平成24年10月18日	城ノ内高等学校(徳島市)
121	余郷 裕次	言語系コース(国語)	絵本の読み聞かせの教育的効果	平成24年10月23日	加茂谷幼稚園(阿南市)
122	石村 雅雄	国際教育コース	これからの学校のあり方	平成24年10月25日	徳島北高等学校(徳島市)
123	大谷 博俊	特別支援教育専攻	障害児理解と移行支援	平成24年10月25日	附属特別支援学校(徳島市) (依頼先: 徳島県特別支援学校連絡担当者連絡協議会)

	氏名	所属 (専攻・コース)	内 容	派遣日	派遣先
124	山森 直人	言語系コース (英語)	英語授業研究会の事前打ち合わせ(指導方法への助言及び支援)	平成24年10月26日	北井上中学校 (徳島市)
125	皆川 直凡	人間形成コース	児童期の心の発達と教育	平成24年10月27日	附属小学校 (徳島市)
126	井上 とも子	特別支援教育専攻	生徒指導 (教育相談等について)	平成24年10月29日	国府中学校 (徳島市)
127	余郷 裕次	言語系コース (国語)	絵本の読み聞かせ	平成24年10月29日	明神小学校 (鳴門市)
128	佐伯 昭彦	自然系コース (数学)	テクノロジーを活用した数学教育について	平成24年10月31日	柳学園高等学校 (洲本市) (依頼先: 兵庫県数学教育会高等学校部会)
129	中津 郁子	臨床心理士養成コース	幼児期の子育てについて 特に保護者対象にカウンセリングをお願いする。	平成24年11月2日	小松島幼稚園 (小松島市)
130	余郷 裕次	言語系コース (国語)	生徒・教職員を対象にした絵本の読み聞かせの指導	平成24年11月2日	脇町中学校 (美馬市)
131	佐藤 公子	特別支援教育専攻	教育的ニーズに応じた児童支援について	平成24年11月6日	高原小学校 (石井町)
132	山田 芳明	芸術系コース (音楽)	鳴門市絵画コンクールにおける作品審査及び児童作品の見方等の指導	平成24年11月7日	里浦小学校 (鳴門市) (依頼先: 鳴門市小教研図画工作・造形教育部会)
133	湯口 雅史	生活・健康系コース (保健 体育)	身体がうごく・みんなでうごく・心がうごく体育学習	平成24年11月9日	加茂小学校 (東みよし町)
134	香西 武	自然系コース (理科)	授業研究会の指導助言「水溶液の性質」	平成24年11月9日	川田中小学校 (吉野川市) (依頼先: 吉野川市小学校教育研究会)
135	成川 公昭	自然系コース (数学)	自然界に現れる数学	平成24年11月9日	城南高等学校 (徳島市)
136	松岡 隆	自然系コース (数学)	幾何学の面白さを伝える題材の紹介	平成24年11月9日	城南高等学校 (徳島市)
137	井上 とも子	特別支援教育専攻	特別な教育的支援を要する子どもへの学校ぐるみの支援	平成24年11月12日	板野東小学校 (板野町)
138	中津 郁子	臨床心理士養成コース	児童理解, 学級経営の改善	平成24年11月12日	藍住北小学校 (藍住町)
139	佐藤 公子	特別支援教育専攻	教育的ニーズに応じた児童支援について	平成24年11月13日	高原小学校 (石井町)
140	粟飯原 良造	臨床心理士養成コース	保護者とのコミュニケーションについて	平成24年11月16日	阿南市役所 (阿南市)
141	皆川 直凡	人間形成コース	児童期の心の発達と教育	平成24年11月17日	附属小学校 (徳島市)
142	畑中 伸夫	生活・健康系コース (技術・工業・情報)	第13回全国中学生創造ものづくり教育フェア 創造アイデアロボットコンテスト大会徳島県予選	平成24年11月18日	附属中学校 (徳島市) (依頼先: 徳島県中学校技術・家庭科研究会)
143	宮下 晃一	生活・健康系コース (技術・工業・情報)	第13回全国中学生創造ものづくり教育フェア 創造アイデアロボットコンテスト大会徳島県予選	平成24年11月18日	附属中学校 (徳島市) (依頼先: 徳島県中学校技術・家庭科研究会)
144	宮本 賢治	生活・健康系コース (技術・工業・情報)	第13回全国中学生創造ものづくり教育フェア 創造アイデアロボットコンテスト大会徳島県予選	平成24年11月18日	附属中学校 (徳島市) (依頼先: 徳島県中学校技術・家庭科研究会)
145	伊東 治己	言語系コース (国語)	英語指導法 (四技能の指導, コミュニケーション活動) Sunshine English Course2 My Project5 将来の夢を語ろう	平成24年11月19日	岩倉中学校 (美馬市)
146	余郷 裕次	言語系コース (国語)	絵本の仕掛けとその読み聞かせの効果	平成24年11月21日	重清西幼稚園 (美馬市)
147	近森 憲助	国際教育コース	総合的な学習の時間と環境	平成24年11月21日	高瀬小学校 (三豊市)
148	佐藤 公子	特別支援教育専攻	教育的ニーズに応じた児童支援について	平成24年11月26日	高原小学校 (石井町)
149	井上 とも子	特別支援教育専攻	特別な教育的支援を要する子どもへの学校ぐるみの支援	平成24年11月28日	脇町小学校 (美馬市)
150	菊地 章	生活・健康系コース (技術・工業・情報)	情報科学技術教育	平成24年11月29日	徳島県立総合教育センター (板野町) (依頼先: 徳島県高等学校教育研究会情報学会)
151	小倉 正義	臨床心理士養成コース	ストレスにどのように向き合うか?	平成24年12月2日	市場中学校 (阿波市)
152	胸組 虎胤	自然系コース (理科)	酵素反応を見る	平成24年12月2日	市場中学校 (阿波市)
153	小倉 正義	臨床心理士養成コース	支援をつなぐために (校内連携, 学校と家庭との連携を中心に)	平成24年12月5日	加茂名南小学校 (徳島市)
154	村田 守	自然系コース (理科)	・2020年の南海地震に備えた減災・防災教育 ・国内・海外旅行がもっと楽しくなる地学の知識	平成24年12月6日	羽ノ浦小学校 (阿南市)

	氏名	所属 (専攻・コース)	内 容	派遣日	派遣先
155	村田 守	自然系コース（理科）	2020年の南海地震に備えた減災・防災教育	平成24年12月6日	長生小学校（阿南市）
156	久我 直人	学校・学級経営コース	学級経営の実践と改善のポイント	平成24年12月6日	応神小学校（徳島市）
157	阪根 健二	学校・学級経営コース	鳴門教育大学大学院の説明 危機管理について	平成24年12月10日	穴吹中学校（美馬市）
158	中津 郁子	臨床心理士養成コース	乳幼児期の子育てについて	平成24年12月10日	新開幼稚園（小松島市）
159	湯口 雅史	生活・健康系コース（保健 体育）	体づくり運動教室	平成24年12月11日	新町小学校（徳島市）
160	村田 守	自然系コース（理科）	2035年寒冷化する地球	平成24年12月12日	鳴門教育大学（鳴門市） （依頼先：城南高等学校）
161	栗田 高明	自然系コース（理科）	放射線について	平成24年12月12日	鳴門教育大学（鳴門市） （依頼先：城南高等学校）
162	早藤 幸隆	自然系コース（理科）	化学実験教材を用いた実験・実習に関する学習指導	平成24年12月12日	鳴門教育大学（鳴門市） （依頼先：城南高等学校）
163	武田 清	自然系コース（理科）	身の回りの物質のなりたちと変化	平成24年12月12日	鳴門教育大学（鳴門市） （依頼先：城南高等学校）
164	胸組 虎胤	自然系コース（理科）	化学進化と生命の起源	平成24年12月12日	鳴門教育大学（鳴門市） （依頼先：城南高等学校）
165	佐藤 勝幸	自然系コース（理科）	原生生物、微小な淡水の生物に関する事柄や活動について	平成24年12月12日	鳴門教育大学（鳴門市） （依頼先：城南高等学校）
166	米澤 義彦	自然系コース（理科）	「生徒実験を工夫する」DNAの抽出実験	平成24年12月12日	鳴門教育大学（鳴門市） （依頼先：城南高等学校）
167	香西 武	自然系コース（理科）	地質に関するフィールドワーク	平成24年12月12日	鳴門教育大学（鳴門市） （依頼先：城南高等学校）
168	長島 真人	芸術系コース（音楽）	音楽授業の構想と実践	平成24年12月13日	大津西小学校（鳴門市）
169	余郷 裕次	言語系コース（国語）	絵本の読み聞かせの教育的効果	平成24年12月14日	徳島市立高等学校（徳島市）
170	佐藤 公子	特別支援教育専攻	教育的ニーズに応じた保護者、教師への教育支援について	平成24年12月18日	高原小学校（石井町）
171	大谷 博俊	特別支援教育専攻	障害児理解と移行支援	平成24年12月19日	徳島県立障害者交流プラザ（徳島市） （依頼先：徳島県特別支援学校進路担当者連絡協議会 事務局）
172	皆川 直凡	人間形成コース	児童期の心の発達と教育	平成24年12月22日	附属小学校（徳島市）
173	末内 佳代	学校臨床実践コース	心と学習の支援教育	平成25年1月10日	富岡小学校（阿南市）
174	伊藤 陽介	生活・健康系コース（技術・工業・情報）	技術教育に関する教材研究	平成25年1月14日	龍雲中学校（高松市）
175	栗田 高明	自然系コース（理科）	放射線について	平成25年1月22日	富岡西高等学校（阿南市）
176	小倉 正義	臨床心理士養成コース	認知的個性を活かしたソーシャルスキルトレーニング	平成25年1月22日	北島北小学校（北島町）
177	西村 公孝	授業実践・カリキュラム開発コース	子どもの社会形成力を育てる学校づくり 発達段階に応じたキャリア教育	平成25年1月24日	羽ノ浦小学校（阿南市）
178	葛上 秀文	教員養成特別コース	生徒指導体制を構築するために 一学校評価・キャリア教育の視点から	平成25年1月24日	神宅小学校（上板町）
179	皆川 直凡	人間形成コース	児童期の心の発達と教育	平成25年1月26日	附属小学校（徳島市）
180	高原 光恵	特別支援教育専攻	つながりを作るために～ポートフォリオの作り方～	平成25年1月31日	盲学校（徳島市）
181	西村 公孝	授業実践・カリキュラム開発コース	発信能力を育てる社会科授業	平成25年1月31日	板野南小学校（板野町）
182	伴 恒信	人間形成コース	ユネスコスクールおよびESD支援事業	平成25年2月2日	ホテルクレメント徳島（徳島市） （依頼先：徳島ユネスコ協会）
183	高原 光恵	特別支援教育専攻	連携機関をつなぐ資料のあり方：子どもへの適切な支援のために	平成25年2月5日	ねむのき（松茂町） （依頼先：育児ファイル子どものポートフォリオをつくらう会）
184	村川 雅弘	授業実践・カリキュラム開発コース	丸亀市総合教育研究会に向けて、研究の方向や内容、校内研修のあり方について実践授業を通してご指導いただきたい	平成25年2月6日	垂水小学校（丸亀市）
185	中津 郁子	臨床心理士養成コース	幼児期の子育てについて 参観後の講演会をお願いする。	平成25年2月8日	小松島幼稚園（小松島市）



	氏名	所属 (専攻・コース)	内容	派遣日	派遣先
186	阪根 健二	学校・学級経営コース	学校防災 どうあるべきか	平成25年2月8日	鳴門市水道会館(鳴門市) (依頼先: 鳴門市教育委員会)
187	大谷 博俊	特別支援教育専攻	小学部から高等部までの一貫した進路指導のあり方について	平成25年2月12日	鴨島支援学校(吉野川市)
188	阿形 恒秀	学校臨床実践コース	教師とは	平成25年2月12日	新居浜東高等学校(新居浜市)
189	村田 守	自然系コース(理科)	2020年の南海地震に備えた減災・防災教育	平成25年2月15日	徳島市役所(徳島市)
190	久我 直人	学校・学級経営コース	学校経営の実践とポイント	平成25年2月15日	野市東小学校(香南市)
191	梅野 圭史	生活・健康系コース(保健体育)	教員を目指す生徒へ～国立大学教育学部での学びについて～	平成25年2月21日	鳴門高等学校(鳴門市)
192	小島 明子	言語系コース(国語)	文学部を目指す生徒へ～文学部での学びについて～	平成25年2月21日	鳴門高等学校(鳴門市)
193	秋田 美代	自然系コース(数学)	主体性を高め、創造力の基礎を育成する指導法	平成25年2月21日	徳島北高等学校(徳島市)
194	皆川 直凡	人間形成コース	児童期の心の発達と教育	平成25年2月23日	附属小学校(徳島市)
195	阿形 恒秀	学校臨床実践コース	大人になるということ	平成25年3月15日	池田高等学校(三好市)
196	末内 佳代	学校臨床実践コース	心と学習の支援教育	平成25年3月15日	海部高等学校(海陽町)
197	石村 雅雄	国際教育コース	これからの学校のあり方	平成25年3月18日	富岡西高等学校(阿南市)
198	大谷 博俊	特別支援教育専攻	障害児理解と移行支援	平成25年3月19日	徳島県立障害者交流プラザ(徳島市) (依頼先: 徳島県特別支援学校進路担当者連絡協議会事務局)

### 平成24年度 鳴門市生涯学習まちづくり出前授業実績表

	氏名	所属 (専攻・コース)	内容	派遣日	派遣先
1	中津 郁子	臨床心理士養成コース	乳幼児期の子育てについて	平成24年7月3日	板東幼稚園
2	速水 多佳子	生活・健康系コース(家庭)	マナーとコミュニケーション	平成24年7月24日	鳴門市社会福祉協議会
3	村田 守	自然系コース(理科)	地球の不思議何でも答えます	平成24年10月13日	板東公民館

教育支援講師・アドバイザー等派遣事業実績	
平成22年度	159件
平成23年度	200件
平成24年度	198件



# 学生生活実態調査(修学項目(抜粋))

学部学生		大学院生																																																																			
<p>Q32. 授業以外で1日平均どのくらい勉強していますか。</p> <p>1. 全くしていない 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間以上</p>		<p>(Q27～Q34は現職教員以外の方に質問します。現職教員の方はQ35へ。) Q27. 授業以外で1日平均どのくらい勉強していますか。</p> <p>1. 全くしていない 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間以上</p>																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr><th>回答項目</th><th>実数</th><th>割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>110</td><td>28.2%</td></tr> <tr><td>2</td><td>106</td><td>27.2%</td></tr> <tr><td>3</td><td>75</td><td>19.2%</td></tr> <tr><td>4</td><td>57</td><td>14.6%</td></tr> <tr><td>5</td><td>29</td><td>7.4%</td></tr> <tr><td>6</td><td>13</td><td>3.3%</td></tr> <tr><td>回答合計</td><td>390</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>回答数</td><td>390</td><td>-</td></tr> <tr><td>無回答数</td><td>2</td><td>-</td></tr> <tr><td>合計(人)</td><td>392</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	回答項目	実数	割合	1	110	28.2%	2	106	27.2%	3	75	19.2%	4	57	14.6%	5	29	7.4%	6	13	3.3%	回答合計	390	100.0%	回答数	390	-	無回答数	2	-	合計(人)	392	-		<table border="1"> <thead> <tr><th>回答項目</th><th>実数</th><th>割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>23</td><td>6.2%</td></tr> <tr><td>2</td><td>26</td><td>7.0%</td></tr> <tr><td>3</td><td>82</td><td>22.0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>106</td><td>28.4%</td></tr> <tr><td>5</td><td>63</td><td>16.9%</td></tr> <tr><td>6</td><td>73</td><td>19.6%</td></tr> <tr><td>回答合計</td><td>373</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>回答数</td><td>373</td><td>-</td></tr> <tr><td>無回答数</td><td>7</td><td>-</td></tr> <tr><td>合計(人)</td><td>380</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	回答項目	実数	割合	1	23	6.2%	2	26	7.0%	3	82	22.0%	4	106	28.4%	5	63	16.9%	6	73	19.6%	回答合計	373	100.0%	回答数	373	-	無回答数	7	-	合計(人)	380	-	
回答項目	実数	割合																																																																			
1	110	28.2%																																																																			
2	106	27.2%																																																																			
3	75	19.2%																																																																			
4	57	14.6%																																																																			
5	29	7.4%																																																																			
6	13	3.3%																																																																			
回答合計	390	100.0%																																																																			
回答数	390	-																																																																			
無回答数	2	-																																																																			
合計(人)	392	-																																																																			
回答項目	実数	割合																																																																			
1	23	6.2%																																																																			
2	26	7.0%																																																																			
3	82	22.0%																																																																			
4	106	28.4%																																																																			
5	63	16.9%																																																																			
6	73	19.6%																																																																			
回答合計	373	100.0%																																																																			
回答数	373	-																																																																			
無回答数	7	-																																																																			
合計(人)	380	-																																																																			
<p>Q33. (Q32で1～3と答えた人だけ回答してください。) 1時間未満しか勉強をしていない理由は何か。(主なものを二つまで)</p> <p>1. 授業等を受けるのに必要がない 2. 授業等で具体的指示がない 3. やる気がしない 4. アルバイトで忙しい 5. 課外活動等で忙しい 6. その他</p>		<p>Q28. (Q27で1～3と答えた人だけ回答してください。) 1時間未満しか勉強をしていない理由は何か。(主なものを二つまで)</p> <p>1. 授業等を受けるのに必要がない 2. 授業等で具体的指示がない 3. やる気がしない 4. アルバイトで忙しい 5. 課外活動等で忙しい 6. その他</p>																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr><th>回答項目</th><th>実数</th><th>割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>71</td><td>16.4%</td></tr> <tr><td>2</td><td>53</td><td>12.2%</td></tr> <tr><td>3</td><td>113</td><td>26.1%</td></tr> <tr><td>4</td><td>70</td><td>16.2%</td></tr> <tr><td>5</td><td>76</td><td>17.6%</td></tr> <tr><td>6</td><td>50</td><td>11.5%</td></tr> <tr><td>回答合計</td><td>433</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>回答数</td><td>291</td><td>-</td></tr> <tr><td>無回答数</td><td>0</td><td>-</td></tr> <tr><td>合計(人)</td><td>291</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	回答項目	実数	割合	1	71	16.4%	2	53	12.2%	3	113	26.1%	4	70	16.2%	5	76	17.6%	6	50	11.5%	回答合計	433	100.0%	回答数	291	-	無回答数	0	-	合計(人)	291	-		<table border="1"> <thead> <tr><th>回答項目</th><th>実数</th><th>割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>11</td><td>6.7%</td></tr> <tr><td>2</td><td>12</td><td>7.4%</td></tr> <tr><td>3</td><td>46</td><td>28.2%</td></tr> <tr><td>4</td><td>22</td><td>13.5%</td></tr> <tr><td>5</td><td>25</td><td>15.3%</td></tr> <tr><td>6</td><td>47</td><td>28.8%</td></tr> <tr><td>回答合計</td><td>163</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>回答数</td><td>128</td><td>-</td></tr> <tr><td>無回答数</td><td>3</td><td>-</td></tr> <tr><td>合計(人)</td><td>131</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	回答項目	実数	割合	1	11	6.7%	2	12	7.4%	3	46	28.2%	4	22	13.5%	5	25	15.3%	6	47	28.8%	回答合計	163	100.0%	回答数	128	-	無回答数	3	-	合計(人)	131	-	
回答項目	実数	割合																																																																			
1	71	16.4%																																																																			
2	53	12.2%																																																																			
3	113	26.1%																																																																			
4	70	16.2%																																																																			
5	76	17.6%																																																																			
6	50	11.5%																																																																			
回答合計	433	100.0%																																																																			
回答数	291	-																																																																			
無回答数	0	-																																																																			
合計(人)	291	-																																																																			
回答項目	実数	割合																																																																			
1	11	6.7%																																																																			
2	12	7.4%																																																																			
3	46	28.2%																																																																			
4	22	13.5%																																																																			
5	25	15.3%																																																																			
6	47	28.8%																																																																			
回答合計	163	100.0%																																																																			
回答数	128	-																																																																			
無回答数	3	-																																																																			
合計(人)	131	-																																																																			
<p>Q34. あなたは平均して月に何冊ぐらい本を読みますか。(娯楽雑誌・漫画を除く。)</p> <p>1. 1冊未満 2. 1～2冊 3. 3～5冊 4. 6～10冊 5. 11冊以上</p>		<p>Q29. あなたは平均して月に何冊ぐらい本を読みますか。(娯楽雑誌・漫画を除く。)</p> <p>1. 1冊未満 2. 1～2冊 3. 3～5冊 4. 6～10冊 5. 11冊以上</p>																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr><th>回答項目</th><th>実数</th><th>割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>189</td><td>48.7%</td></tr> <tr><td>2</td><td>126</td><td>32.5%</td></tr> <tr><td>3</td><td>58</td><td>14.9%</td></tr> <tr><td>4</td><td>9</td><td>2.3%</td></tr> <tr><td>5</td><td>6</td><td>1.5%</td></tr> <tr><td>回答合計</td><td>388</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>回答数</td><td>388</td><td>-</td></tr> <tr><td>無回答数</td><td>4</td><td>-</td></tr> <tr><td>合計(人)</td><td>392</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	回答項目	実数	割合	1	189	48.7%	2	126	32.5%	3	58	14.9%	4	9	2.3%	5	6	1.5%	回答合計	388	100.0%	回答数	388	-	無回答数	4	-	合計(人)	392	-		<table border="1"> <thead> <tr><th>回答項目</th><th>実数</th><th>割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>102</td><td>27.3%</td></tr> <tr><td>2</td><td>145</td><td>38.8%</td></tr> <tr><td>3</td><td>92</td><td>24.6%</td></tr> <tr><td>4</td><td>25</td><td>6.7%</td></tr> <tr><td>5</td><td>10</td><td>2.7%</td></tr> <tr><td>回答合計</td><td>374</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>回答数</td><td>374</td><td>-</td></tr> <tr><td>無回答数</td><td>6</td><td>-</td></tr> <tr><td>合計(人)</td><td>380</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	回答項目	実数	割合	1	102	27.3%	2	145	38.8%	3	92	24.6%	4	25	6.7%	5	10	2.7%	回答合計	374	100.0%	回答数	374	-	無回答数	6	-	合計(人)	380	-							
回答項目	実数	割合																																																																			
1	189	48.7%																																																																			
2	126	32.5%																																																																			
3	58	14.9%																																																																			
4	9	2.3%																																																																			
5	6	1.5%																																																																			
回答合計	388	100.0%																																																																			
回答数	388	-																																																																			
無回答数	4	-																																																																			
合計(人)	392	-																																																																			
回答項目	実数	割合																																																																			
1	102	27.3%																																																																			
2	145	38.8%																																																																			
3	92	24.6%																																																																			
4	25	6.7%																																																																			
5	10	2.7%																																																																			
回答合計	374	100.0%																																																																			
回答数	374	-																																																																			
無回答数	6	-																																																																			
合計(人)	380	-																																																																			
<p>Q36. 講義・演習などに直接関係しない本の読書時間は平均で1日どのくらいですか。</p> <p>1. 全くない 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間以上</p>		<p>Q31. 講義・演習などに直接関係しない本の読書時間は平均で1日どのくらいですか。</p> <p>1. 全くない 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間以上</p>																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr><th>回答項目</th><th>実数</th><th>割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>140</td><td>36.1%</td></tr> <tr><td>2</td><td>109</td><td>28.1%</td></tr> <tr><td>3</td><td>79</td><td>20.4%</td></tr> <tr><td>4</td><td>46</td><td>11.9%</td></tr> <tr><td>5</td><td>9</td><td>2.3%</td></tr> <tr><td>6</td><td>5</td><td>1.3%</td></tr> <tr><td>回答合計</td><td>388</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>回答数</td><td>388</td><td>-</td></tr> <tr><td>無回答数</td><td>4</td><td>-</td></tr> <tr><td>合計(人)</td><td>392</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	回答項目	実数	割合	1	140	36.1%	2	109	28.1%	3	79	20.4%	4	46	11.9%	5	9	2.3%	6	5	1.3%	回答合計	388	100.0%	回答数	388	-	無回答数	4	-	合計(人)	392	-		<table border="1"> <thead> <tr><th>回答項目</th><th>実数</th><th>割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>59</td><td>15.9%</td></tr> <tr><td>2</td><td>130</td><td>35.1%</td></tr> <tr><td>3</td><td>118</td><td>31.9%</td></tr> <tr><td>4</td><td>39</td><td>10.5%</td></tr> <tr><td>5</td><td>9</td><td>2.4%</td></tr> <tr><td>6</td><td>15</td><td>4.1%</td></tr> <tr><td>回答合計</td><td>370</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>回答数</td><td>370</td><td>-</td></tr> <tr><td>無回答数</td><td>10</td><td>-</td></tr> <tr><td>合計(人)</td><td>380</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	回答項目	実数	割合	1	59	15.9%	2	130	35.1%	3	118	31.9%	4	39	10.5%	5	9	2.4%	6	15	4.1%	回答合計	370	100.0%	回答数	370	-	無回答数	10	-	合計(人)	380	-	
回答項目	実数	割合																																																																			
1	140	36.1%																																																																			
2	109	28.1%																																																																			
3	79	20.4%																																																																			
4	46	11.9%																																																																			
5	9	2.3%																																																																			
6	5	1.3%																																																																			
回答合計	388	100.0%																																																																			
回答数	388	-																																																																			
無回答数	4	-																																																																			
合計(人)	392	-																																																																			
回答項目	実数	割合																																																																			
1	59	15.9%																																																																			
2	130	35.1%																																																																			
3	118	31.9%																																																																			
4	39	10.5%																																																																			
5	9	2.4%																																																																			
6	15	4.1%																																																																			
回答合計	370	100.0%																																																																			
回答数	370	-																																																																			
無回答数	10	-																																																																			
合計(人)	380	-																																																																			



## 平成24年度学生による授業評価実施要項

### 1. 授業評価の概要

平成10年10月26日の大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」の中では、責任ある授業運営と厳格な成績評価を目的とした教育方法の改善が求められている。そして、「学生による授業評価」も教員個々の教育の質の向上を図る1つの方法として実施すべきことが指摘されている。

各大学の教育活動及び研究活動に関する自己点検・評価の実施とその結果の公表が、各大学の義務として位置づけられている現在においては、「学生による授業評価」も公表することを前提として実施する必要がある。

本学では、平成12年度以降本格的にアンケート調査を実施し、調査結果の数値化・グラフ化とそれに基づく分析などを含んだ「学生による授業評価実施報告書」を公表している。

### 2. 授業評価の実施方法と集計

- 調査は、すべての授業科目（嘱託講師担当授業科目を含む）について実施する。ただし、実地教育科目及び卒業研究は対象外とする。複数の教員で担当する授業の場合は、最終授業を行う教員が実施することとする。
- アンケート用紙は、所定のアンケート用紙（A4版）を用いて「無記名」で実施する。
- アンケート項目は、教員が授業に合わせて、質問項目を加筆・削除できる。
- 集計の終わったアンケート用紙は、授業担当者に返還する。
- アンケート用紙の大項目1，2，4，5の平均点を総合評価とする。
- 各授業科目の集計・グラフ部分及び分析コメントは、鳴門教育大学のウェブページに公開する。

### 3. 平成24年度授業評価の実施状況

科目区分	授業評価実施授業科目数	有効回答人数	平均点
教養基礎科目	40	1,136	4.3
教育実践コア科目	41	454	4.3
教職共通科目	82	3,828	4.3
専修専門科目	253	4,236	4.3
合計	416	9,654	4.3

#### 4. 科目区別授業評価結果集計表

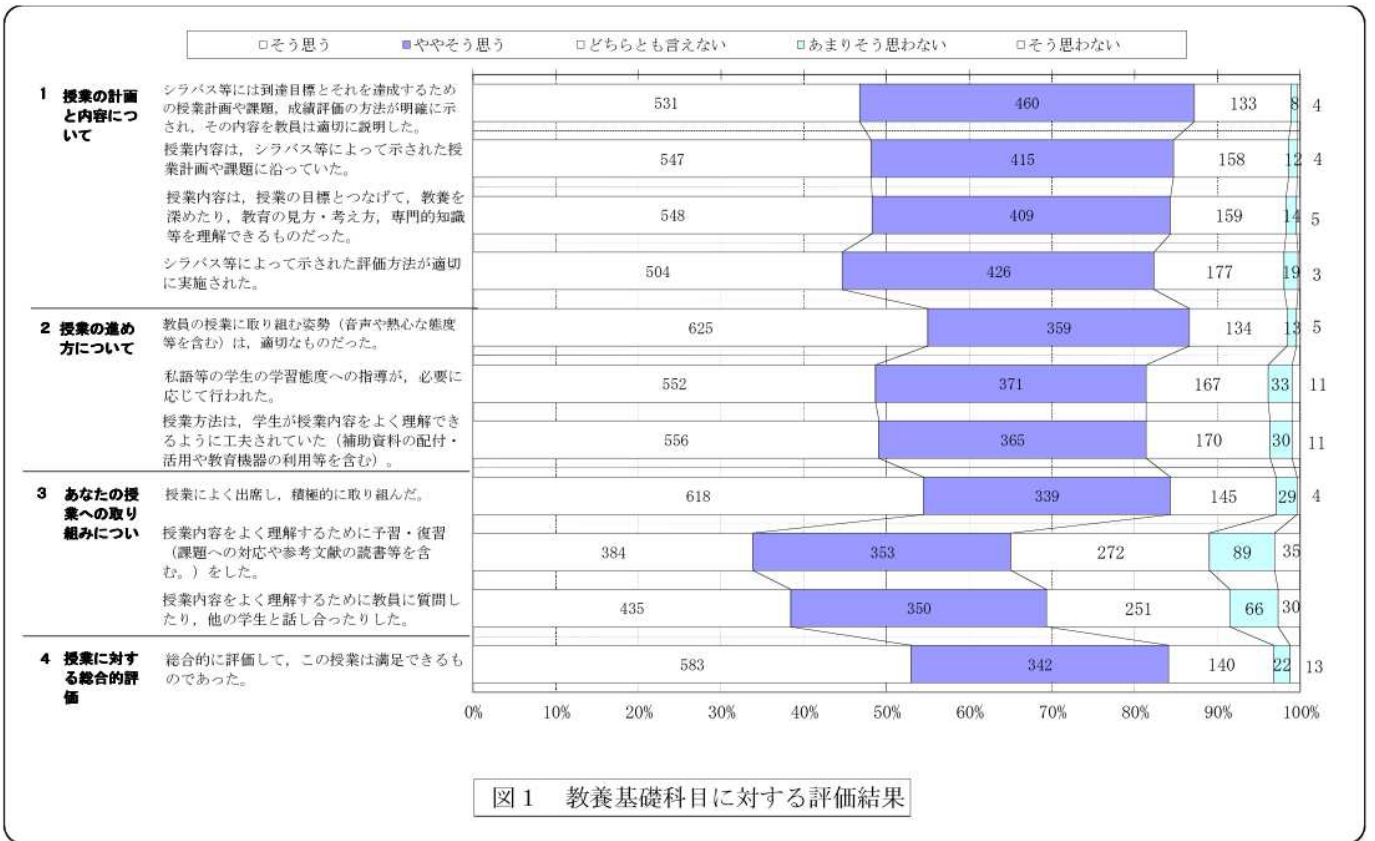


図1 教養基礎科目に対する評価結果

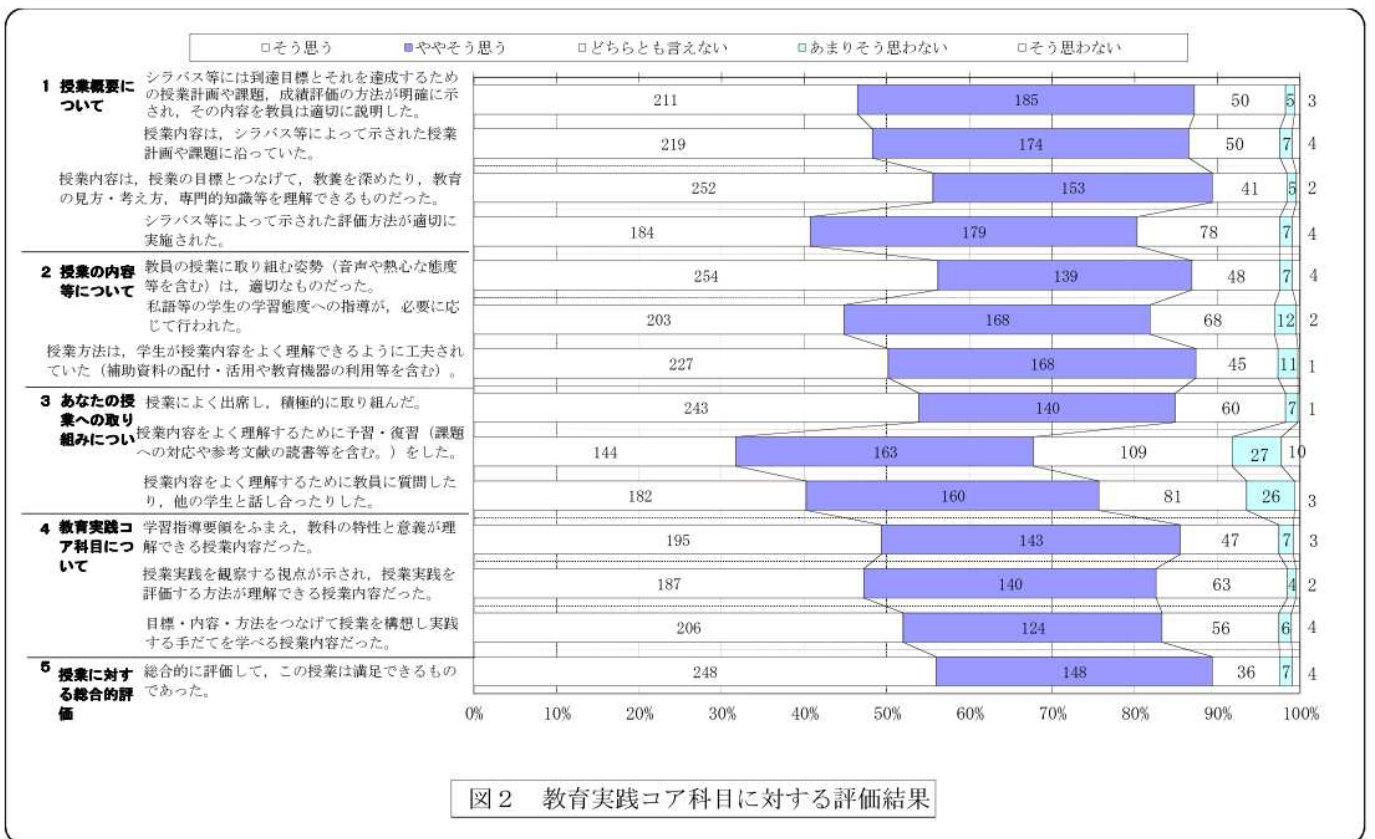


図2 教育実践コア科目に対する評価結果

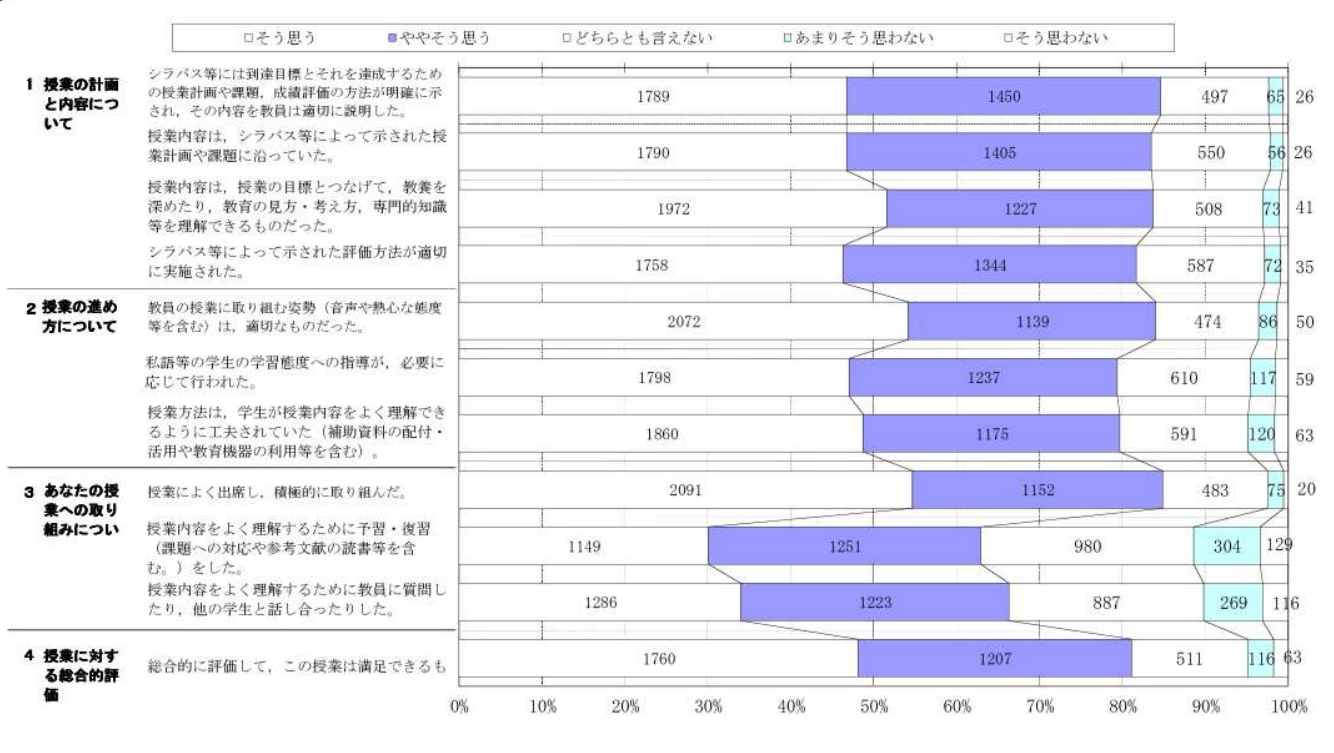


図3 教職共通科目に対する評価結果

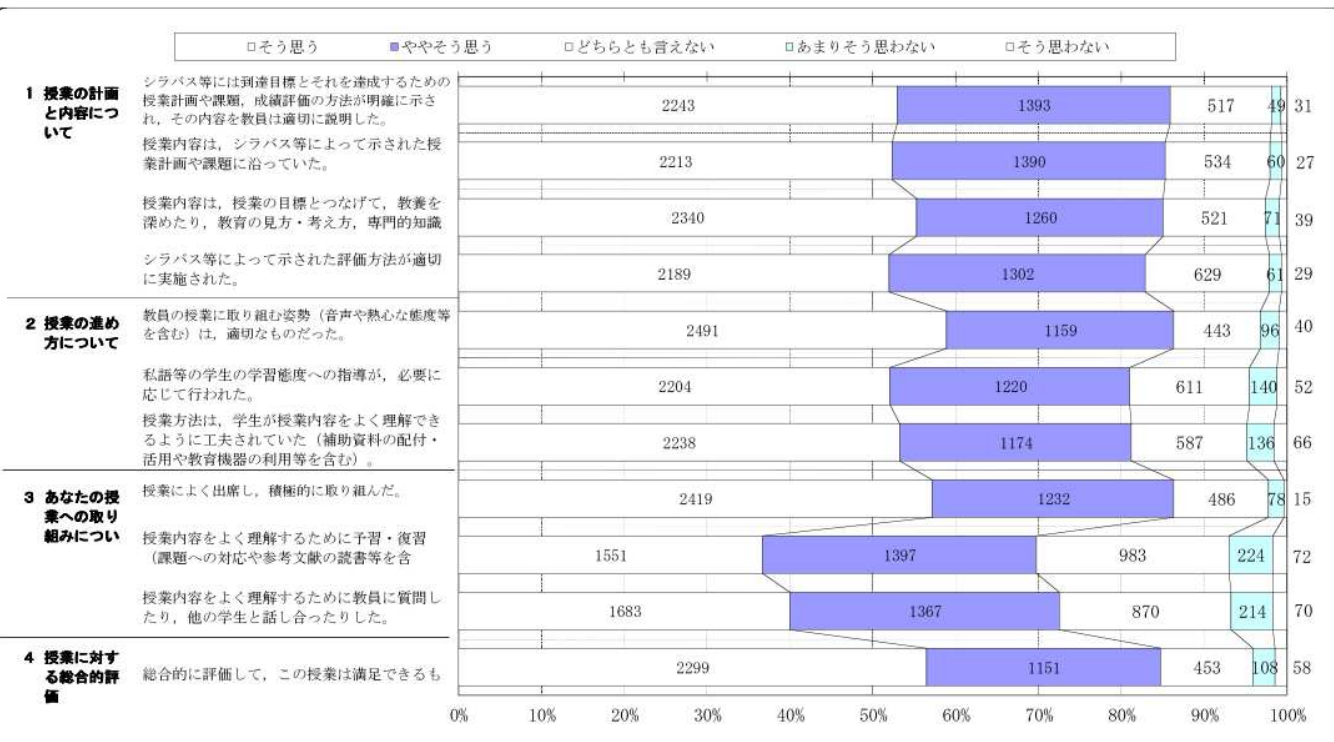


図4 専修専門科目に対する評価結果





## 平成２４年度ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント） 推進事業について

### I. F D推進事業の目的

鳴門教育大学は、教育実践学を中核とした学部・修士による６年間を見通した教員養成を目指すとともに、学校教育や教科教育の課題を解明できる実践的能力を育成することを中期目標の１つとして掲げている。この目標を達成するための方策として、FD推進事業を計画的に実施することを、中期計画の中に謳っている。

平成２１年度からは、全学組織としてFD・SD委員会を設置し、FD事業をより一層推進することに努めてきたが、平成２４年度は委員会を見直し、FD専門部会をFD委員会に格上げすることにより、より効果的にFD推進事業を実施した。本事業は、本学教員の授業実践能力の向上と、授業に対する学生の認識の深化を図ることを目指すものであり、具体的には以下の３点を目的としている。

- ① 教員養成大学である本学における、教育実践力を培うためのよりよい授業のあり方を共有する。
- ② 教員養成大学である本学における、FDの在り方を構築する。
- ③ 本学の学生の現状を踏まえた、授業改善のための課題を明確にする。

### II. 平成２４年度FD推進事業の内容

#### 1. 公開授業週間

【目的】 教員相互の授業参観を通して授業改善に取り組む意識を高めるとともに、具体的な授業事例をもとにして、各教員の授業改善を図ることを目的とする。

【期間】 平成２４年１０月１７日（水）～平成２４年１０月２３日（火）

- 公開授業は、原則として公開授業週間中に開講されている全授業科目とする。ただし、嘱託講師担当の授業科目は除く。
- 公開されている授業科目は、すべての教員が参観できる。
- 参観授業に対する授業研究会は行わない。授業に関する意見交換は、参観者と授業担当教員とで協議の上、直接行う。
- 教員は、特別公開授業を含む公開授業すべての中から、原則として１授業科目以上を参観する。
- 参観後は、所定の「授業観察記録」に記入し教務課に提出する。  
※特別公開授業については、「授業観察記録」の提出は不要
- 提出された「授業観察記録」は教務課において取りまとめ、授業担当教員に送付する。
- 授業担当教員は、「授業観察記録」に基づき、授業改善を行う。

#### 2. 特別公開授業

【目的】 他教員の優れた授業実践を参観し、公開された授業に係る授業研究会を実施することを通して、教育実践力を培うためのよりよい授業のあり方を共有することを目的とする。

【期 日】 平成２４年１０月１７日（水）～平成２４年１０月３０日（火）

【対象者】 本学教員全員

【授業数】 １６授業（各コースごとに開講）

### 3. 特別公開授業に係る授業研究会・FDワークショップ

- 【目的】 FDワークショップは、教員養成におけるFDの特性と意義に関する認識を深め、本学におけるFDの在り方を構築することを目的とする。  
本ワークショップを通して、各教員が教育実践力を培う授業のあり方を共有し、教員養成大学である本学におけるFDについての理解を深めることが期待できる。
- 【テーマ】 『よい教師を育てる授業とは』  
○教科教育と教科専門との関係、  
○授業実践力と専門知識・資質との連関性
- 【期 日】 平成24年10月17日（水）～平成24年10月30日（火）
- 特別公開授業に係る授業研究会は、教育実践力を培うためのよりよい授業のあり方について、特別公開授業を素材として検討する。
  - FDワークショップは特別公開授業に係る授業研究会と連動し、特別公開授業を素材として、上記のテーマについて検討するほか、特別公開授業に係る全体会の目的にもあるとおり、次の2つの課題についても議論する。
    - (ア) 学生の授業に対する意欲・モチベーションについて、例えば、コア領域の実践的な授業には積極的であるのに対し、教科専門科目等への意識が低い傾向が指摘されていることについて
    - (イ) 教科教育と教科専門との関係、あるいは、授業実践力と専門的知識との連関性について
  - 特別公開授業・FDワークショップ終了後、コースごとに報告書を提出する。

### 4. 全体会

- 【目的】 コース・専攻を単位として実施した特別公開授業の結果出された共通の課題について、コース・専攻を超えて、各教育部から発表していただきながら全体会として展開することで、授業改善等につなげることを目的とする。
- 【日 時】 平成24年10月31日（水） 14時40分～16時10分
- ①基礎・臨床系教育部 「学生の授業意欲、実践と専門知の関連」  
人間形成コース 梶井一暁 准教授
  - ②人文・社会系教育部 「人文・社会系教育部のワークショップから考えること」  
社会系コース 町田 哲 准教授
  - ③自然・生活系教育部 「ものづくりのためのよい教師を育てる授業とは」  
生活・健康系コース(技術・工業・情報) 宮本賢治 准教授
  - ④芸術・健康系教育部 「教科教育と教科専門の関係」  
芸術系コース(美術) 内藤 隆 准教授

### Ⅲ. 平成24年度FD推進事業の成果と課題

#### <成果>

- 公開授業週間では、教員同士の情報交換や交流を通して授業改善に向けた動機づけが高まった。
- 特別公開授業は、各コース等を単位に実施したことにより、教員の専門性や関心が共有しやすいという利点があって、多くの教員が参加することができた。
- 特別公開授業に係る授業研究会・FDワークショップは、コース等ごとに特別公開授業、授業研究会、FDワークショップを一連の流れの中で実施することによって、教員が主体的に参加することができ、効果的だった。
- 全体会は、比較的多くの教員が参加し、分かりやすい興味深い発表が行われ、活発な議論が展開され、充実したものとなった。
- 以上4つのタイプの事業が実施されるプロセスにおいて、コース等内部の教員同士が交流することで、またコース等を越えた教員同士が交流することで、個々の授業改善のみならず大学全体の改善につながるFD推進事業が実施されたといえる。

#### <課題>

- 公開授業の実施時期について、特別公開授業及び公開授業週間が毎年後期に実施されるため対象科目が限られてきている。
- FD推進事業の内容に関して、さらなる展開のために、またマンネリ化を防ぐために新たな試みに挑戦していくことが必要である。
- FD推進事業への教員の動機づけについて、教員同士の交流や議論を活性化してFD推進事業への動機づけを高めていくことが必要である。

